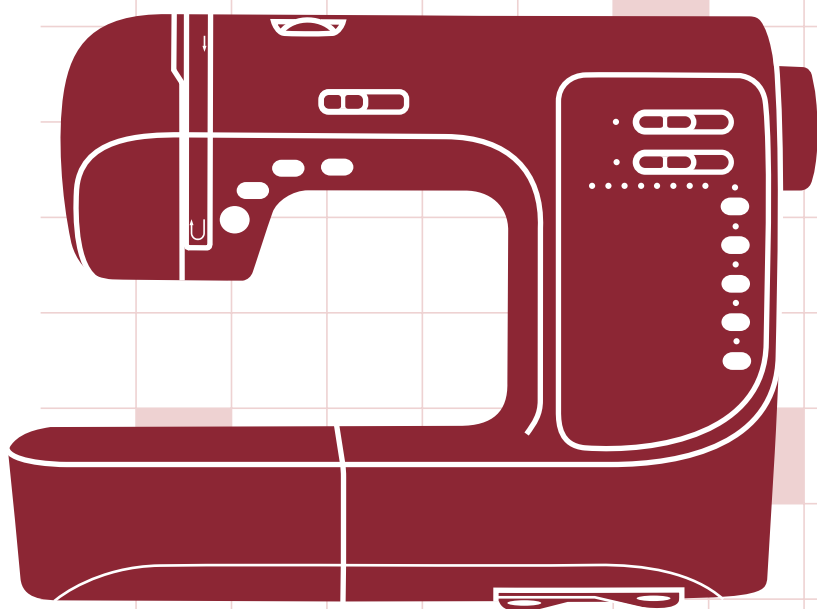


SINGER®



SN771-n 使用の手びき

このミシンを安全にお使いいただくため、この「使用の手びき」をご使用の前に必ずお読みください。

「使用の手びき」は手元に保管し、末長くご活用ください。

はじめに

このたびは、お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできるコンピュータミシンです。このミシンの特徴をご理解いただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。

「使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管してください。

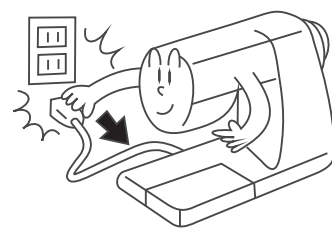
安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用いただくために、以下のことがらを必ず守ってください。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY.

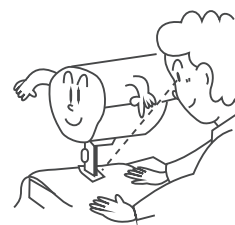
！ 警告 このマークの表示は感電、火災の恐れがありますから、特にご注意ください。

1. 一般家庭用交流電流 100V でご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - ・ ミシンのそばを離れるとき。
 - ・ ミシンを使用したあと。
 - ・ ミシン使用中に停電したとき。
 - ・ 接触不良、断線などで正常に作動しないとき。
 - ・ 雷が鳴りはじめたとき。



！ 注意 このマークの表示は感電、火災、けがなどの原因となりますから、特にご注意ください。

1. お客様自身での分解、改造はしないでください。
2. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。
3. ミシンの操作中は、カマカバーなどのカバー類は、必ず閉めてください。
4. 曲がった針、先の痛んだ針はご使用にならないでください。



5. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。

6. お子さまがご使用になるときや、お子さまの近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。

7. 以下の事をするときは、電源スイッチを切ってください。

- ・ 針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき。
- ・ 「使用の手びき」に記載のあるミシンの手入れをするとき。
- ・ 原則として上糸、下糸をセットするとき。

8. ミシンに以下の異常があるときは、すみやかに使用を停止し、購入店にて点検、修理、調整をお受けください。

- ・ 正常に動作しないとき。
- ・ 落下などにより破損したとき。
- ・ 水に濡れたとき。
- ・ 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
- ・ 異常な臭い、音がするとき。

9. ミシンを正しく使用するために、安定したテーブルや机に置いてご使用ください。



ミシンの取り扱い

- シンナーやベンジンなどでふかないでください。
- 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。時間がたてば正常に作動するようになります。保管は、なるべく寒いところをさけてください。
- 直射日光にあてたり、高温多湿のところには置かないでください。



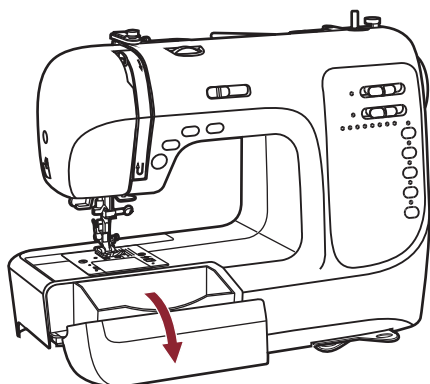
仕様

型 式	SN771-n
定 格 電 圧	100V
消 費 電 力	70W
周 波 数	50Hz/60Hz
LED ライト	5V Max. 100mW
寸 法	幅:404 mm×奥行:188 mm×高さ:298 mm
重 量	約 5.8 kg (本体のみ)

はじめに.....	2
安全にご使用いただくために.....	2-3
ミシンの取り扱い.....	4
仕様.....	4
補助テーブル・付属品.....	7
各部の名称とはたらき.....	8-11
左側面・前面/右側面・背面.....	8
操作部.....	9-10
表示パネル.....	11
電源のつなぎ方.....	12
電源を入れます/電源を切ります.....	12
警告機能.....	13
下糸をセットしましょう.....	14-17
糸コマをセットします.....	14
ボビンを取り出します.....	14-15
下糸を巻きます.....	15-16
補助糸立棒の使い方.....	16
ボビンをかまにセットします.....	17
上糸を通しましょう.....	18-20
上糸をかけます.....	18-19
糸通しの使い方.....	20
用途によって、下糸を引き上げ使用する際は次のように行います.....	21
針を取り替えるには.....	22
布地に適した針と糸の選び方.....	23
押えを取り替えるには.....	24
押えを取り外します/押えを取り付けます/シームガイドのつけ方.....	24
模様の選び方.....	25-27
ボタンの操作方法.....	25
模様のふり幅を変更したいとき/模様のぬい目を変更したいとき.....	26
ぬい模様一覧.....	27
糸調子の合わせ方.....	28
基本ぬい(直線ぬいとジグザグぬい).....	29-32
直線ぬい/ジグザグぬい.....	29
基本のぬい方.....	30
ぬい方向をかえるには/返しぬい/止めぬい.....	31
厚地のぬい方/段ぬい.....	32
伸縮ぬい.....	33
裁ち目かがり.....	34
ボタンホール.....	35-38
芯入りボタンホール.....	38
まつりぬい.....	39-40
ファスナー付け.....	41-42
つきあわせ.....	41
脇あき/スライダーをよけてぬうには.....	42

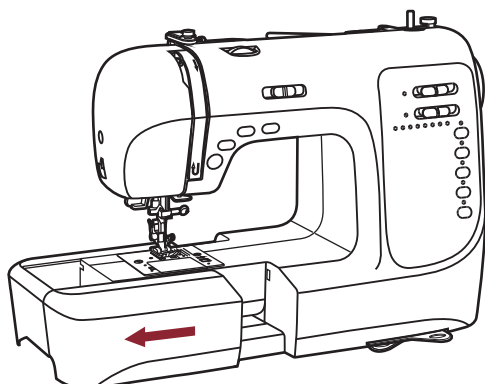
つくろいぬい.....	43-44
ボタン付け	45
飾りぬい	46
スカラップ	46
ファゴティング.....	47
パッチワーク.....	47
ミシンのお手入れ	48
困ったときには	49-50
修理サービス要領	51
LEDライトの交換	51
フットコントローラー（別売り）	52
ワイドテーブル（別売り）	53

補助テーブル・付属品



※こちらには下記付属品の一部が入っています。

付属品箱は、手前方向に開けてください。



補助テーブルを左方向へ引くと外れます。

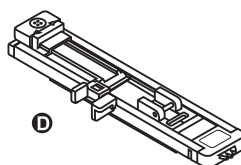
付属品 ※必ず下記付属品が入っていることを確認してください。



ジグザグ押え
(ミシン本体についています)



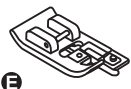
ファスナー押え



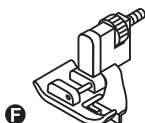
ボタンホール押え



ボタン付け押え



縁かがり押え



ブラインドステッチ押え



サテン押え



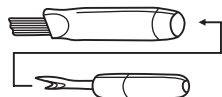
ボビン



三角ドライバー



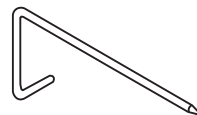
ドライバー (小)



ブラシ付きリッパー



針パック



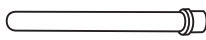
シームガイド



糸コマ押え(大)



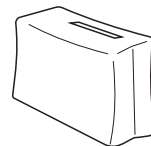
糸コマ押え(小)



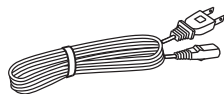
補助糸立棒



糸コマ座



ソフトカバー



電源コード



使用の手びき

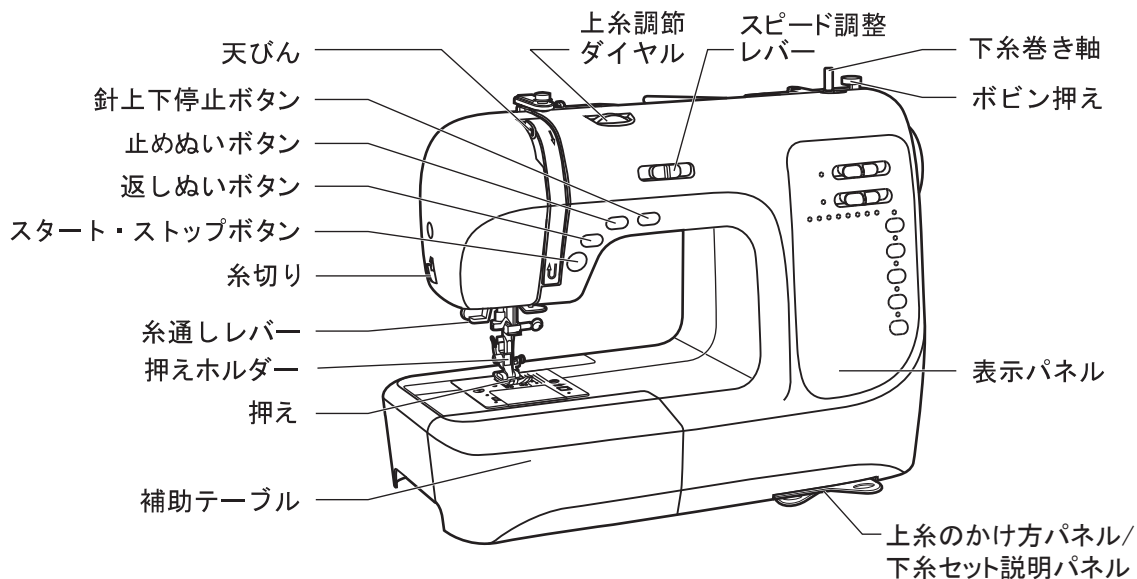


使用説明DVD

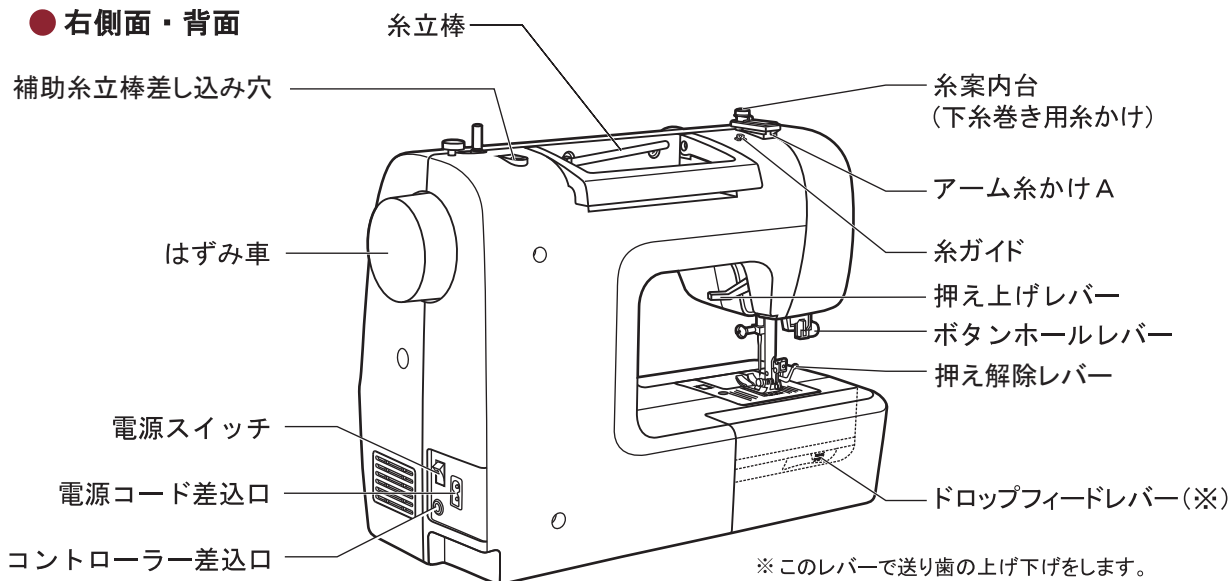
各部の名称とはたらき

ここでは、ミシンの各部の名称とはたらきを説明します。ミシンをご使用になる前に、よく読んで各部の名称を覚えておきましょう。

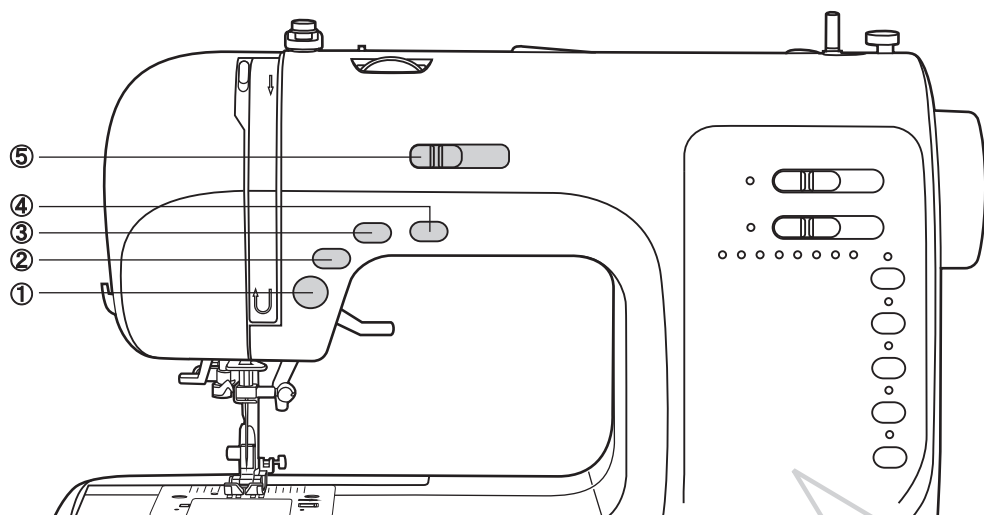
● 左側面・前面



● 右側面・背面



※このレバーで送り歯の上げ下げをします。
通常レバーを背面から見て右の位置にしておきます。(操作説明は10ページ参照)



● 操作部

ミシンを動かす基本的な操作が手元でできます。

① スタート・ストップボタン

ミシンをスタートまたはストップします。ボタンを押すとゆっくり動きだし、その後、スピード調整レバーでセットした速さで動きだします。もう一度押すと停止します。

※下糸巻き軸が右によっているときは、針は上下しないで下糸巻き軸だけ回ります。

② 返しぬいボタン

返しぬいまたは、止めぬいをします。ボタンを押している間、模様01-06のとき、ぬった方向の逆にぬい、ボタンから手をはなすと止まります。

※返しぬいは、裁縫中ボタンを押すと返しぬいになり、離すと前進ぬいになります。

模様07-16、21-40のときは、その場で3針止めぬいをします。模様ぬいは途中で終了しますのでご注意ください。 ※模様17-20の時はボタンを押しても機能しません。

③ 止めぬいボタン

模様を選択したあと、このボタンを押すと止めぬいをすることができます。

模様01-05のとき、ボタンを押すと、3針止めぬいをして自動的に止まります。

その他の模様ぬいのときボタンを押すと、模様が完了するところまでぬってから止めぬいをして自動的に止まります。

※模様17-20のときは、ボタンを押しても機能しません。

④ 針上下ボタン

ボタンを押すたびに、針の位置を上または下に切り替えます。続けて押すと、1針ぬいになります。また、ぬい始めにこのボタンで針を下に下げてからスタートした場合は、停止時に下で止まります。逆に上に上げてからスタートした場合は、停止時に上に止まります。

⑤ スピード調整レバー

ミシンをぬうスピードを設定します。お好みのスピードにセットしてください。

左側に寄せると遅くなり、右側に寄せると早くなります。

各部の操作とはたらき

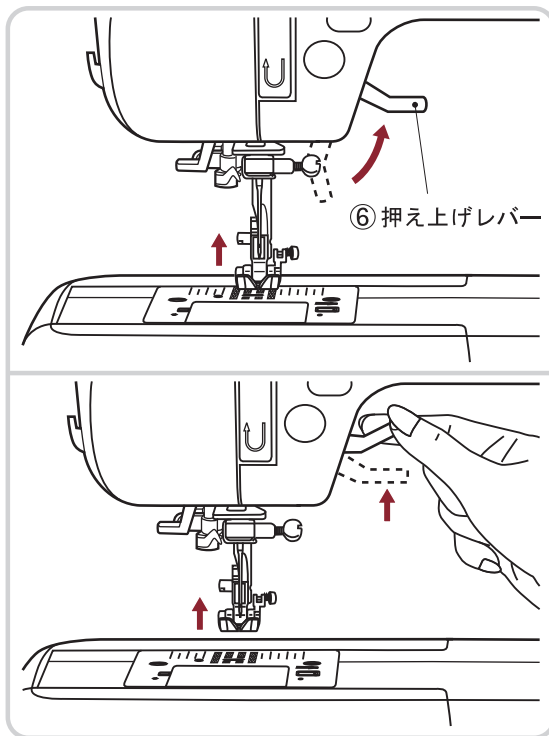
⑥ 押え上げレバー

布を押えたり、布を引き出すときに押え上げレバーを使用して図のように上げ下げします。

布を何枚か重ねてぬうときや、厚い布地をぬうとき、これらの布を押えの下に入れてやすくするため、押えをさらに上に上げることができます。

※このときレバーは固定されません。

手を放すとレバーは普通に上げた位置に戻ります。

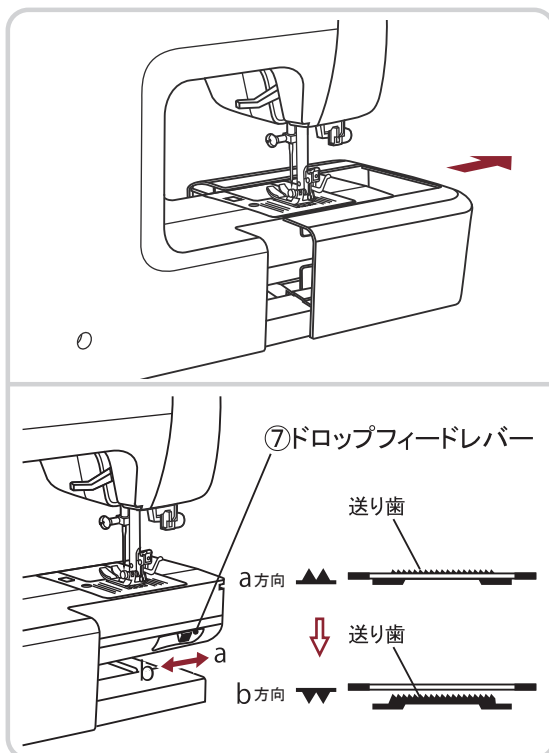


⑦ ドロップフィードレバーの使い方 (送り歯の上げ下げ)

補助テーブルを矢印方向に引くと、本体背面下部に、送り歯を上げ下げするためのドロップフィードレバーがあります。

針を上に上げた状態で、レバーをスライドして針板より下の位置(b)方向 "▼" にセットすると、送り歯が針板上面より沈みます。

また、レバーを針板より上の位置(a)方向 "▲" にセットしはずみ車を回すと、送り歯が針板上面より出てきます。



各部の操作とはたらき

●表示パネル

表示パネルには、ぬい模様を選択するボタンが付いています。

電源を入れると、自動的に直線(中基線01)が選ばれ、01の上の表示ランプが点灯します。この状態で、直線ぬいをすることができます。

※電源を切ると、切る前に選択していた模様はリセットされるため、電源を入れた際は、必ず直線が選択されています。ご注意ください。

①ふり幅調節レバー

選んだ模様は、レバーの位置に関係なく、標準のふり幅が自動的に設定されています。

お好みのふり幅に調整をするときは、まず27ページ「ぬい模様一覧」のふり幅の自動設定値(自動)を確認してから、レバーの位置を移動してください。

ふり幅調節レバーを動かすと、ふり幅の自動設定値を簡単に確認できます。

レバーが自動設定値のところまでくると、レバーの左側にあるランプが点灯し、「ピッ」と音で知らせます。

お好みのふり幅を手動設定したい場合は、確認した自動設定値から開始し、レバーを左右の調整したい位置まで動かします。左に動かすとふり幅はせまくなり、右に動かすとひろくなります。選んだ模様を設定されている「手動設置位置」までくると、レバーの左側にあるランプが3回点滅し、「ピッ」と音が鳴ります。

※模様によってランプの点滅する位置が違います。点滅しないところでは、設定変更はできません。

※26ページ模様の選び方参照

②ぬい目の長さ調節レバー

選んだ模様は、レバーの位置に関係なく、標準のぬい目の長さが自動的に設定されています。

お好みのぬい目の長さに調整をするときは、まず27ページ「ぬい模様一覧」のぬい目の長さの自動設定値(自動)を確認してから、レバーの位置を移動してください。ぬい目の長さ調節レバーを動かすと、ぬい目の長さの自動設定値を簡単に確認できます。

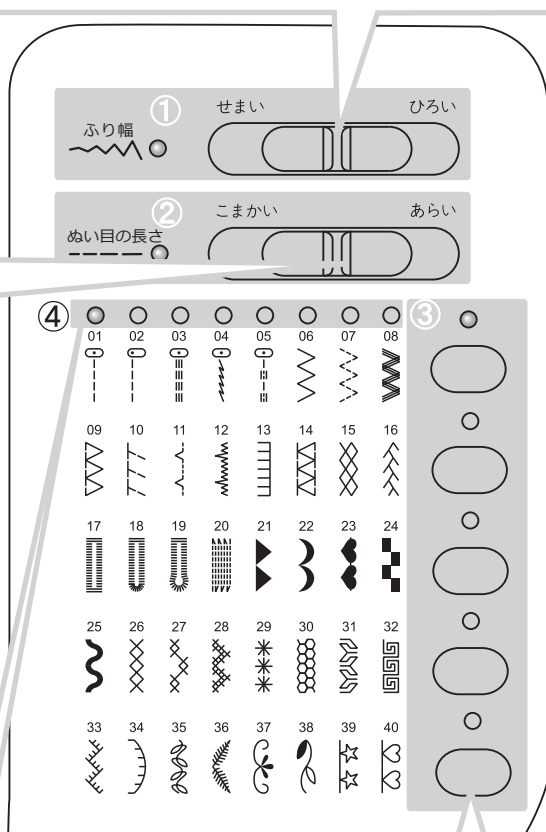
レバーが自動設定値のところまでくると、レバーの左側にあるランプが点灯し、「ピッ」と音で知らせます。

お好みのぬい目の長さを手動設定したい場合は、確認した自動設定値から開始し、レバーを左右の調整したい位置まで動かします。左に動かすとぬい目の長さはこまくなり、右に動かすとあらくなります。

選んだ模様を設定されている「手動設置位置」までくると、レバーの左側にあるランプが3回点滅し、「ピッ」と音が鳴ります。

※模様によってランプの点滅する位置が違います。点滅しないところでは、設定変更はできません。

※26ページ模様の選び方参照



③表示ランプ

選択した模様は、01～08上の表示ランプと、③の模様選択ボタンの交わる部分で確認します。※表示ランプは一番上の01～08の上だけにあります。※25ページ模様の選び方参照

④模様選択ボタン

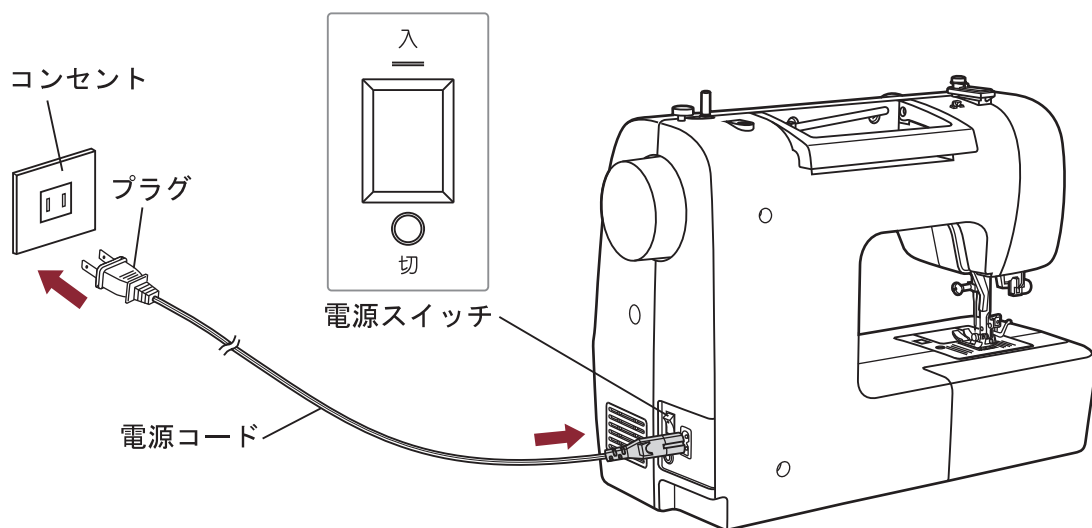
ボタンの左に表示された模様を選択できます。希望の模様が一番上にある表示ランプが点灯するまで押します。

1段目 01～08、2段目 09～16、3段目 17～24
4段目 25～32、5段目 33～40

電源のつなぎかた

！ 警告：感電、火災を防ぐために
電源は必ずプラグを持って抜き差ししてください。

！ 注意：ケガ防止のために
○ 使用中に糸がからんだり、ミシンが止まった場合には電源スイッチを「切」にしてください。
○ ミシンを使用しないとき、ミシンから離れるときは、電源コードを外してください。



●電源を入れます

- ・電源プラグを家庭用電源コンセント (AC100V) に差し込みます。
- ・電源スイッチを「入」にします。
電源を入れると、自動的に直線 (中基線01) が選ばれ、01の上にランプが点灯します。
この状態で直線ぬいをすることができます。

●電源を切ります

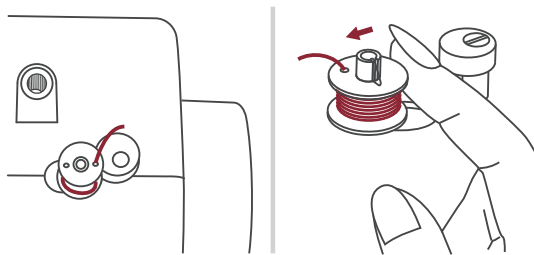
- ミシンを使い終わったら、電源を切ります。また、ミシンを移動するときは、必ず電源を切ってから移動してください。
- ・ミシンが止まっていることを確認します。
 - ・電源スイッチを「切」にします。電源が切れ、ランプが消えます。
 - ・電源プラグを持ってコンセントから抜きます。

● 警告音

下糸巻き

下糸巻きが終わったまま、または下糸巻き軸が右側に押されたまま、スタート・ストップボタン以外のボタンを押すと、下糸巻き軸が左側に押されるまで、「ピッピッピッ」と3回警告音が鳴ります。

下糸巻きが終わったときは、必ず下糸巻き軸を左に戻しておいてください。



! 注意：ケガ防止のために
ぬっている途中で、糸がからむなどしてミシンがロックすると、警告音がして自動的に止まります。必ず電源を切ってください。トラブルを取り除いたあと、電源を入れて再びお使いください。

電子音

スタート・ストップボタンを押すと電子音が鳴ります。

- ・正しく機能しているとき「ピッ」と1回鳴ります。
- ・設定や使い方が間違っているとき「ピッピッピッ」と3回鳴ります。
- ・ミシンがトラブルを起こし、ぬえないとき「ピッピッピッ」と3回鳴ります。

※ 模様のぬい目の長さ、ふり幅を変更しているときの電子音については、P11をご確認ください。

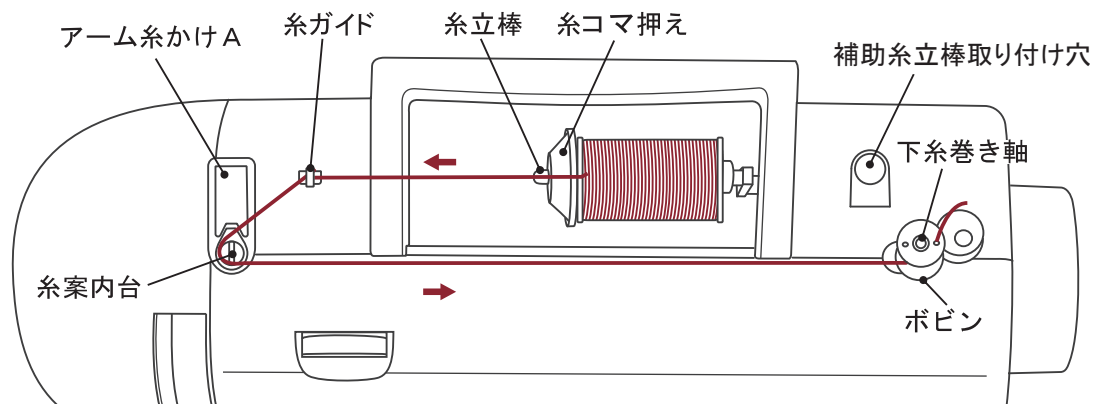
下糸をセットしましょう

下糸用の糸をボビンに巻いてから、ミシンにセットします。



注意：ケガ防止のために

- 糸コマの向きや糸コマ押えが正しくセットされていないと、糸立棒に糸がからまり、ボビンにきれいに糸が巻けません。
- ボビンは必ず専用ボビン（高さ11.5mmプラスチック製）を使用してください。専用ボビン以外を使用すると、ミシンが正しく動作しません。ケガ・故障の原因となります。
- ボビンを取り出すときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

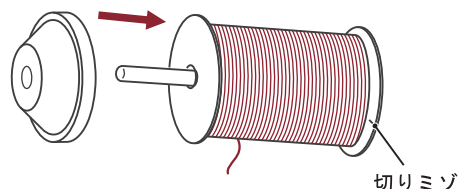


● 糸コマをセットします

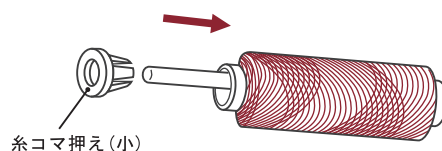
糸立棒を軽く起こし、下側から手前に糸が出る向きにして下糸用の糸コマを入れ、糸コマ押えで糸コマを押えます。

※小さい糸を使用するときは、糸コマ押えを裏にして取り付け、糸コマから少し離してセットします。

糸コマが細い時には、糸コマ押え（小）をご使用ください。

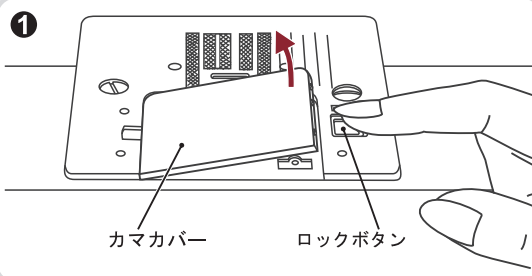


※糸巻きに切りミゾがあるときは、その部分を右側にしてセットしてください。



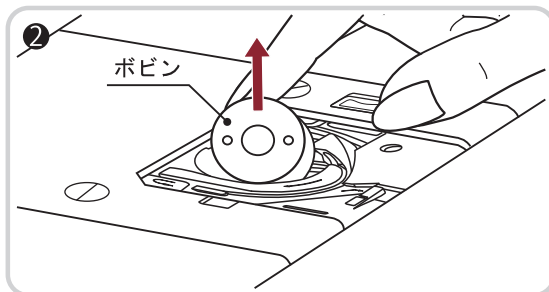
● ボビンを取り出します

- ① カマカバーの右側にあるロックボタンを右に動かします。



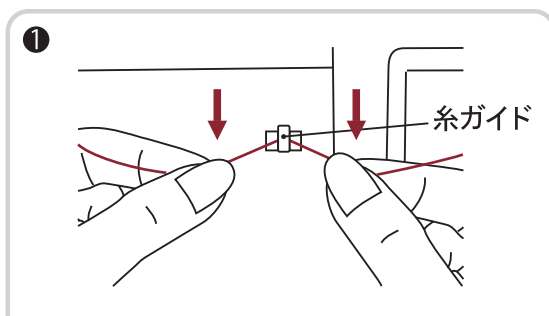
下糸をセットしましょう

- ② カマカバーを外し、ボビンを取り出します。

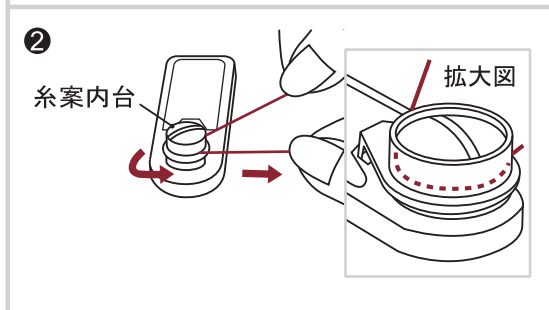


● 下糸を巻きます

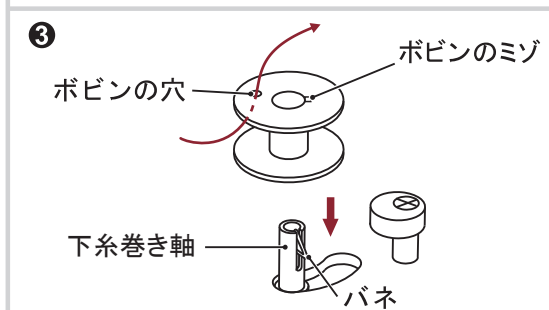
- ① 糸コマから糸を引き出し、糸ガイドの後ろから手前に糸をかけます。



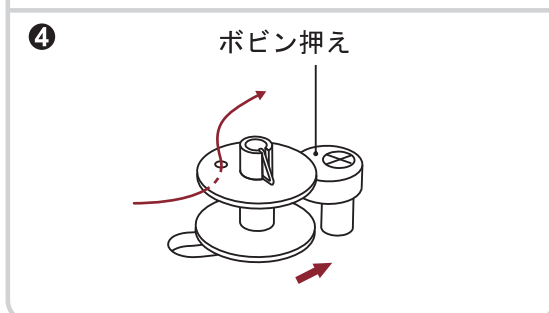
- ② 糸を左手前に引き、糸案内台の下に奥までしっかり入る様に、左回りに糸をかけます。 ※正しく糸がかかっていると、糸を右に引いたとき、抵抗感があります。



- ③ 糸案内台にかけた糸を引き出し、ボビンの穴に内から外に通します。ボビンのミゾと下糸巻き軸バネの位置を合わせて、ボビンを下糸巻き軸に差し込みます。

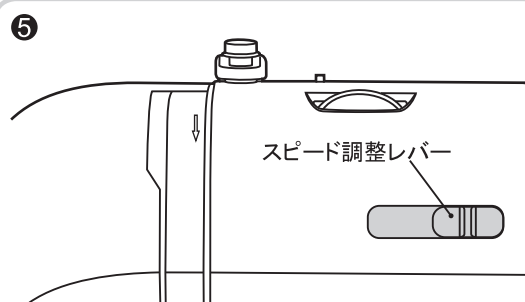


- ④ ボビンをセットした状態で、下糸巻き軸を右側に押します。

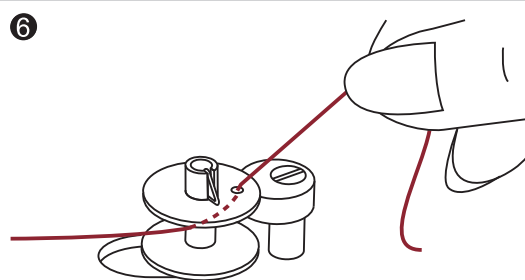


下糸をセットしましょう

- ⑤ スピード調整レバーで糸を巻くスピードをはやいに設定します。

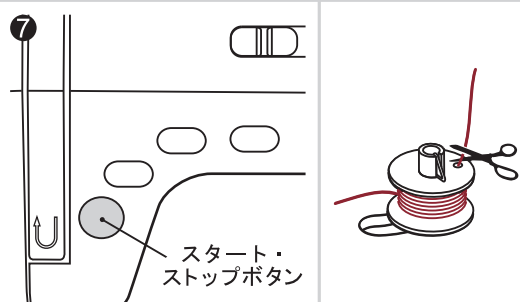


- ⑥ ボビンに通した糸はしを持ったまま、スタート・ストップボタンを押して巻き始めます。

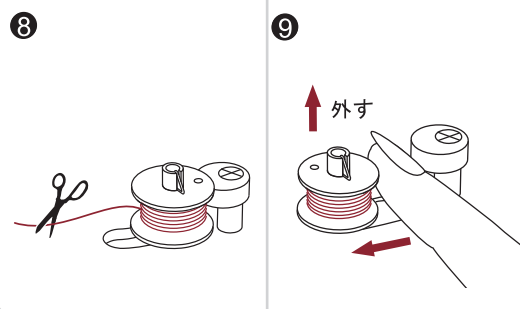


- ⑦ 少し巻いたら、いったん止めて、ボビンの上の余分な糸を切ります。

もう一度スタートさせます。



- ⑧ 巻き終わると、ボビンの回転がゆるやかになります。スタート・ストップボタンを押してミシンを止め、巻き終わりの糸を切ります。

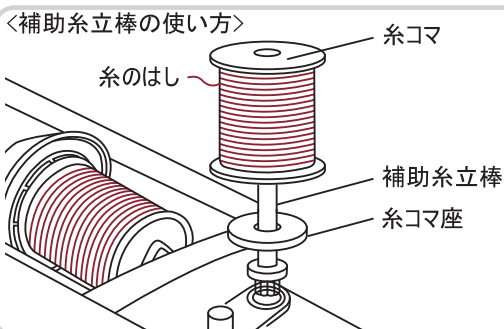


- ⑨ 下糸巻き軸を左側に戻し、ボビンを取り外します。

● 補助糸立棒の使い方

付属の補助糸立棒を使うと、ミシンに付いている糸立棒に糸コマをセットした状態のまま、別の糸コマで糸巻きができます。
補助糸立棒を使う時は、右図のように補助糸立棒に、糸コマ座を差し込んでから、補助糸立棒取り付け穴(14ページ参照)に差し込んでください。

下糸巻きの方法は、糸コマから糸を引き出し、①～⑨と同じ手順でボビンに下糸を巻きます。

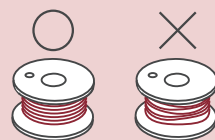


下糸をセットしましょう



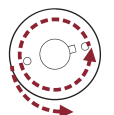
注意：

下糸は正しく巻かれたものをご使用ください。下糸の巻き方が悪いと、針折れや糸調子不良の原因となります。



● ボビンをカマにセットします

- ① カマカバーを外し、糸のはしを出してカマの中にボビンが左回りになるように入れます。



糸の方向

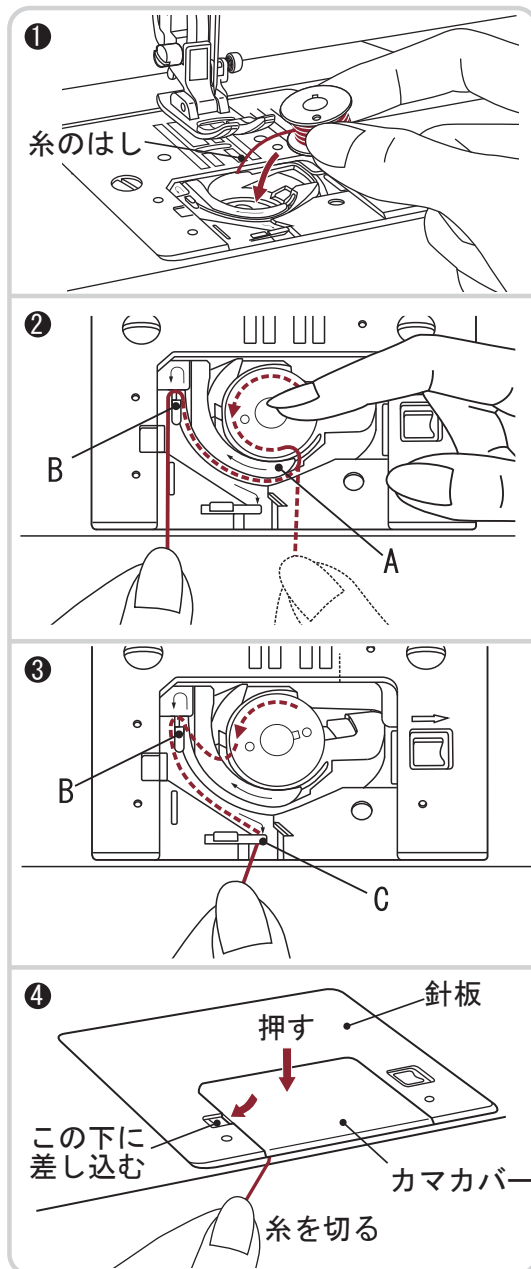
- ② ボビンを指で押え、糸を図のように矢印方向に引き(A)のツノの下にあるスリットにギュッと糸を押し込み、その後(B)の位置までギュッとしっかりひっぱります。

※下糸がしっかり入っていない場合、布の上のぬい目がつたように一本線になることがあります。

- ③ 糸を図に示す矢印の通りに(B)の位置にも糸を上から下にギュッと押し込むようにかけた後、(C)の位置まで糸を引き、余分な糸をかけます。糸はしは切らず、カマカバーを取り付けます。取り付け方法は④参照

- ④ カマカバー左の突起部分を針板の下へ差し込み、右側を押え、カマカバーを閉じます。カマカバーを固定した後に手前に出ている糸を左に引くと糸が切れ、セット完了です。

- ⑤ 布を置き、押えを下げ、ぬい始めます。(下糸を引き上げる必要はありません。)



注意：ケガ防止のために

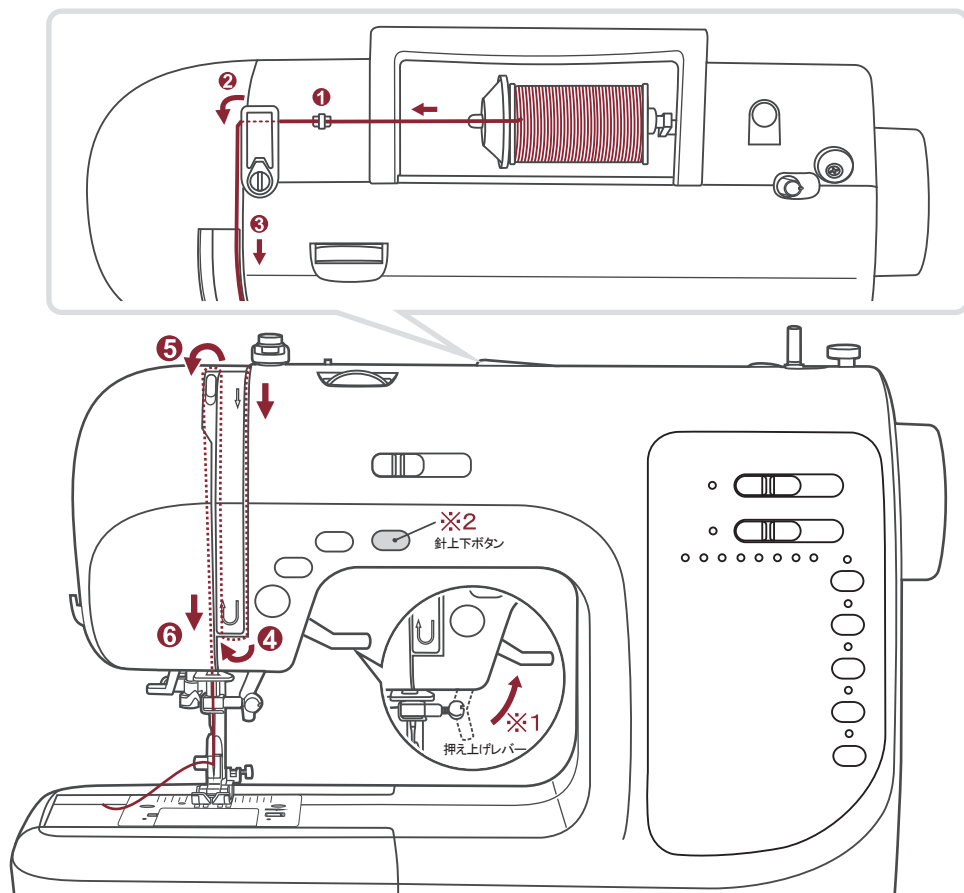
ミシンを作動する際は必ずカマカバーを閉めてください。

上糸を通しましょう



注意：ケガ防止のために

- 糸コマの向きや糸コマ押えが正しくセットされていないと、糸立棒に糸がからまり、針折れの原因となります。
- 針上下ボタンを使用した後は、必ず電源スイッチを切ってください。



● 上糸をかけます

1. 押え上げレバーを上に出します。(図※1)

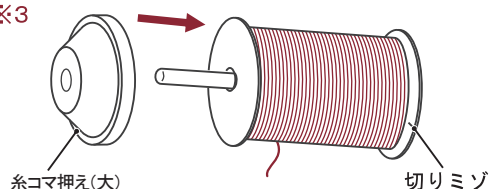
必ず押え上げレバーを上げてください。
レバーを下けたまま上糸のセットを行うと、
布地の裏やカマに沢山糸が出てからむことが
あります。

2. 針上下ボタンを1回または2回押し、
針を上げます。(図※2)
電源スイッチを切ります。

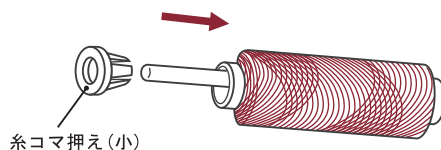
3. 糸立棒を軽くおこし、糸コマを入れ、
糸コマ押えで糸コマを押えます。(図※3)

※小さい糸を使用するときは、糸コマ押えを裏にして
取り付けます。糸コマから少し離してセットします。
※糸コマが細いときには、糸コマ押え(小)をご使用
ください。

※3



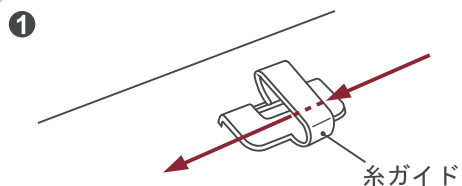
※糸巻きに切りミゾがあるときは、
その部分を右側にしてセットしてください。



上糸を通しましょう

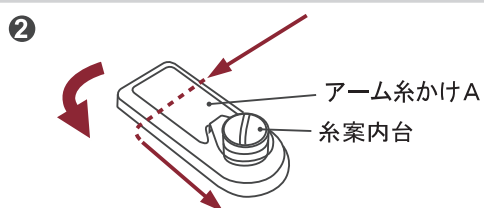
必ず前ページ（※1～※3）の準備を済ませてから、上糸かけを行ってください。

- ① 糸コマから糸を引き出し、糸ガイドの後ろから手前に糸を通します。



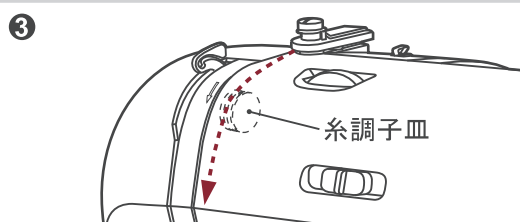
- ② 通した糸をさらに引き出し、アーム糸かけAの後ろから糸をかけます。

※下糸巻きの際使用した、糸案内台には糸を絶対にかけないでください。

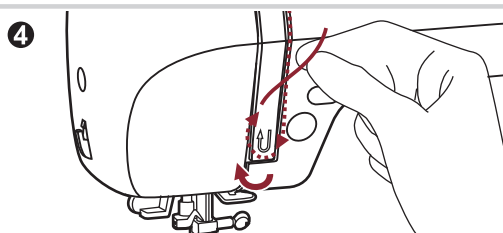


- ③ 糸を両手で持ち、ピンと張った状態で、ミゾの中にある、上糸調子皿に上から下に糸をキュッと通した後、矢印にそって、手前に糸を引きおろします。

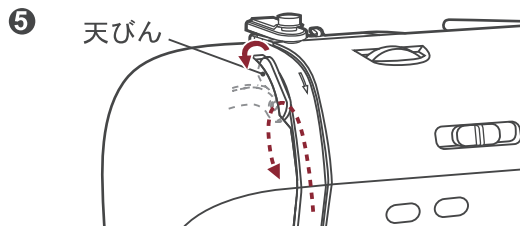
※糸調子皿はミシンの外からは見えません。



- ④ 矢印にそって、右から左に糸を引き上げます。

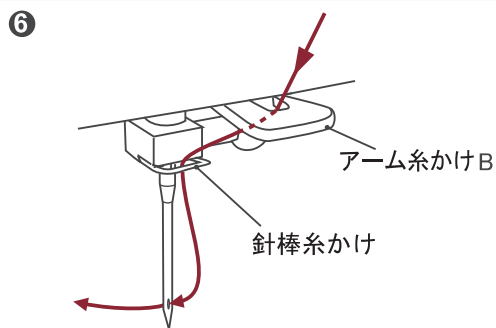


- ⑤ 天びんの右側から後ろへ糸を回し左手前に引き、天びんの穴の奥まで糸をかけます。



- ⑥ 糸をアーム糸かけBに右奥からかけたら、続いて針棒糸かけにも右奥から糸をかけます。その後、針穴に前から後ろに糸を通します。

針穴に糸を通す糸通しレバーの使い方は、次のページをご参照ください。



上糸を通しましょう

●糸通しの使い方



注意：ケガ防止のために

○糸通し使用中は、はずみ車を手で回さないで下さい。

○ミシンが動いているときは糸通しレバーに手を触れないでください。

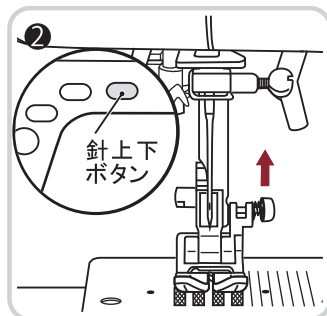
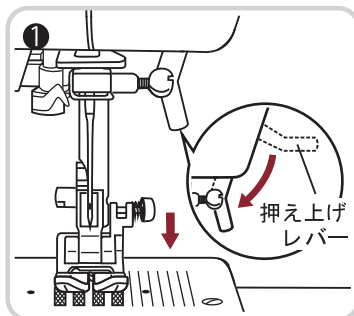
糸通しレバーがこわれるだけでなく、針が折れ、ケガのもとになります。

① 押えを下げます。

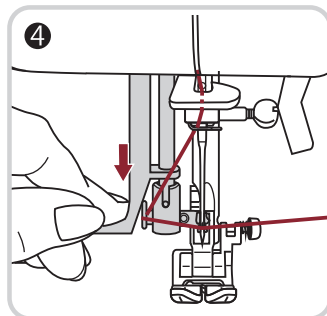
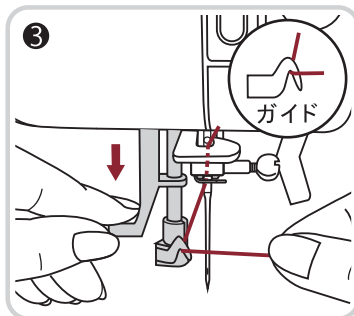
② 針上下ボタンで針を上
上げます。

※糸通しができる針は、
11番、14番、16番です。

※糸通しレバーは針上下
ボタンを押して必ず針が
上で停止している状態
で使用してください。



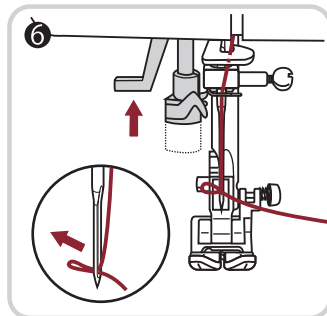
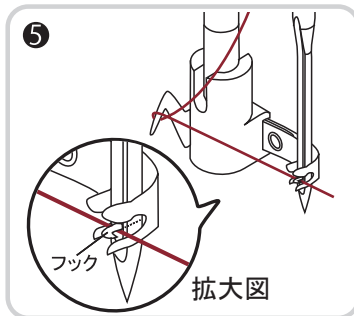
③ 糸通しレバーを軽く下げ、
糸を糸通しのガイドに
かけて、右に引いていき
ます。



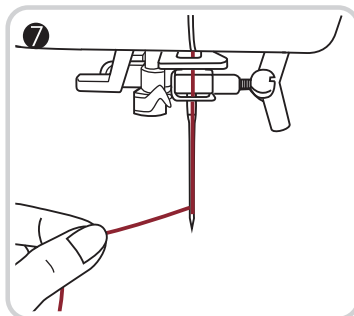
④ レバーをいっぱい下げ
ます。

糸通しレバーが回転し、
フックが針穴に通ります。
※針が正しい位置にないと、
レバーが回転しません。

必ず②番を行ってください。
針穴にフックが通らないまま
無理に押し下げると、フックが
曲がり針穴に通らなくな
ることがあります。



⑥ 糸を軽く持ってレバーを
放します。糸が輪になって、
針穴に通ります。フックは
元の位置に戻ります。



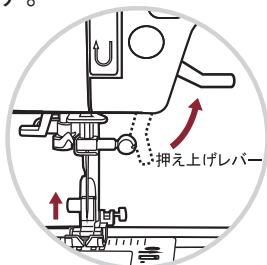
⑦ 糸はしを針穴から10cm
くらい引き出しておきます。

これで準備完了です。

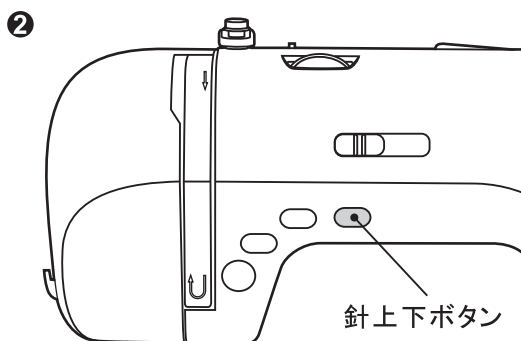
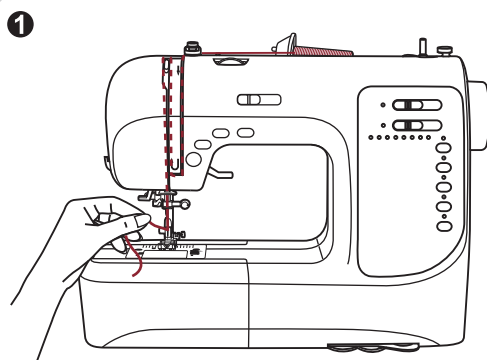
用途によって、下糸を引き上げ使用する際は次のように行ないます

このミシンは、下糸を引き上げなくてもぬうことができますが、下糸を長くにとってぬい始めたいときは、下糸を引き上げておきます。※下糸セット時の最後の糸切りはしないでください。

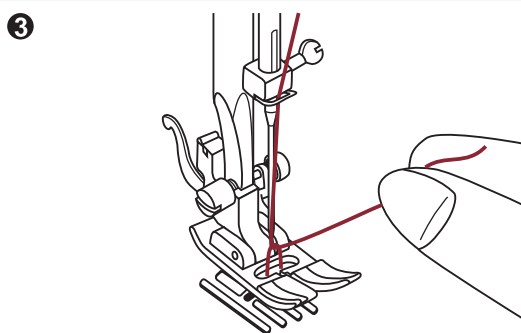
- ① 押え上げレバーを上へ上げ、針に通した糸を左手で持ちます。



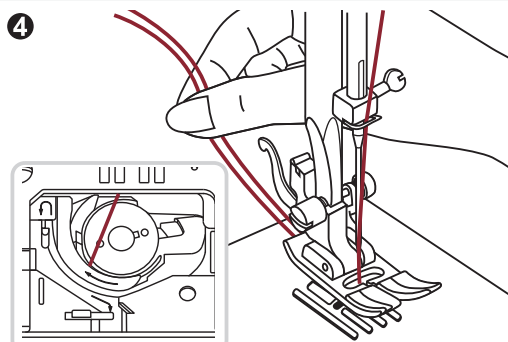
- ② 上糸をかるく持ったまま、針上下ボタンを2回続けて押します。



- ③ 上糸を静かに引くと、下糸が輪になって出てきます。



- ④ 上糸と下糸をそろえ、押えの下から後ろに10cm程引き出しておきます。



※下糸を引きあげた後、ボビンを上から見ると、左上に1本糸がかかった状態となります。かかっていないと糸調子がとれず、きれいにぬえません。もう一度下糸をセットし直してください。

針を取り替えるには

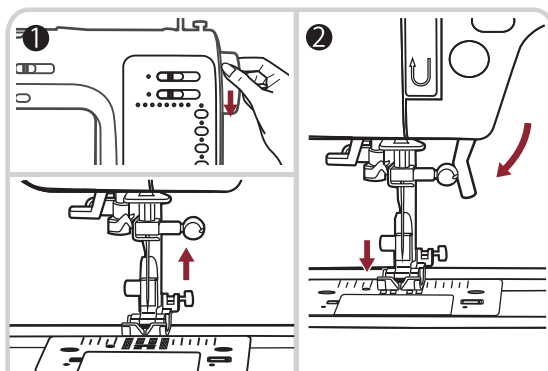
針は、布地や糸に合わせて選びます。23 ページの「布地に適した針と糸の選び方」を参照してください。



注意：ケガ防止のために

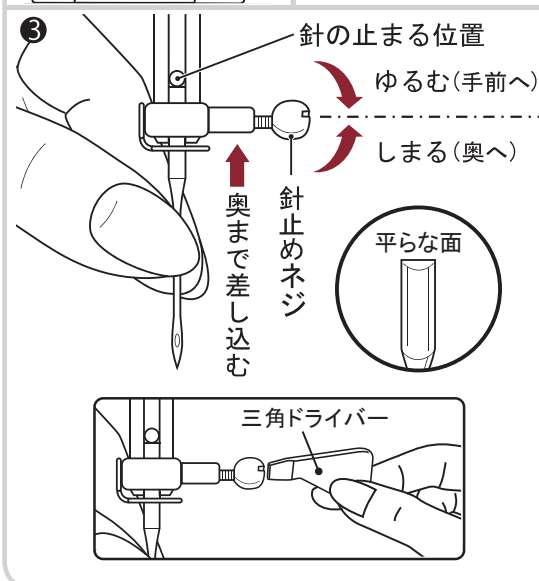
- 曲がった針や先のつぶれた針は、危険ですので、ご使用にならないでください。
- 針は必ず家庭用ミシン針 (HAx1) をご使用ください。
- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

- ① はずみ車を手前に回して、針を一番上に上げます。
- ② 押え上げレバーを下げ、押えを下げます。

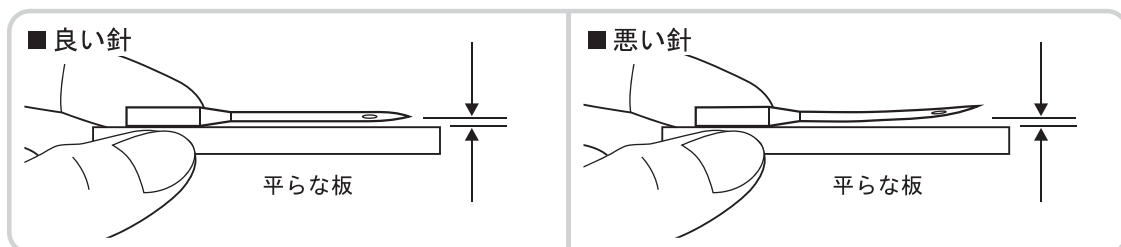


- ③ 針止めネジを三角ドライバーで手前に回しゆるめ、針を下に引き抜きます。

新しい針の裏面 (平らな面) を後ろにして、針の止まる位置まで深く差し込んで、針止めネジを三角ドライバーで締め付けます。



取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。



布地に適した針と糸の選び方

ミシン針は、布地や糸の太さによって使い分けます。この表を目安に、布地にあった針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

※必ずミシン専用の糸をご使用ください。

布地の種類		糸の番号	針の番号
薄地	薄地ジョーゼット、オーガ ンジー、ボイル、絹布など。	スパン系糸 90 (ポリエステル) 綿 80~100 絹 60~80	9~11 番
普通地	ギンガム、リンネル、さら さ木綿、サテン、薄手コー デュロイ、ベルベット、一般服地 など。	スパン系糸 60 (ポリエステル) 綿 50~80 絹 50	11~14 番
厚地	ギャバジン、ツイード、デ ニム、キルティング、コー デュロイ、ジーンズなど。	スパン系糸 60 (ポリエステル) 綿 40~50 絹 50	14~16 番
伸縮性の布地	ダブルニット、トリコット、 スパンデックス、ジャージ など。	スパン系糸 60 (ポリエステル) レジロン系糸 50	11~14 番 ニット用針

- ・糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
- ・ニット用針は伸縮性のある布地や目飛びしやすい布地に使用します。
- ・購入時は、14番の針がミシンに取り付けられています。

※綿や絹の糸は、経年劣化により切れやすくなります。
なるべく新しい糸をお使いください。（目安として製造より2年）

※ナイロン透明糸およびメタリック糸、また手ぬい用の糸（キルト糸）などは
使用しないでください。

<オススメ>

スパン系（素材：ポリエステル）の糸であれば、ほとんどの布地に対応でき、
また長持ちします。

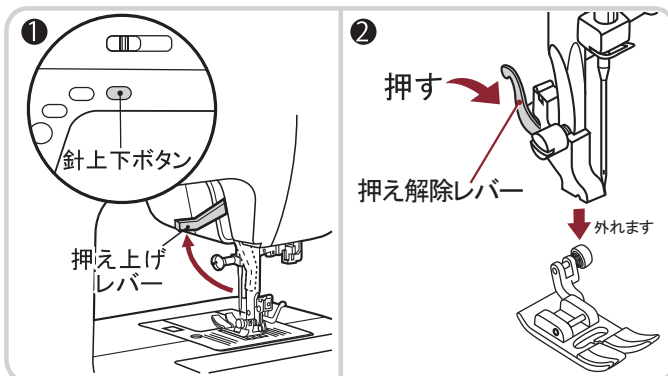
押えを取り替えるには

! 注意: ケガ防止のために

- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たったり、曲がったりして危険です。
- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

● 押えを取り外します

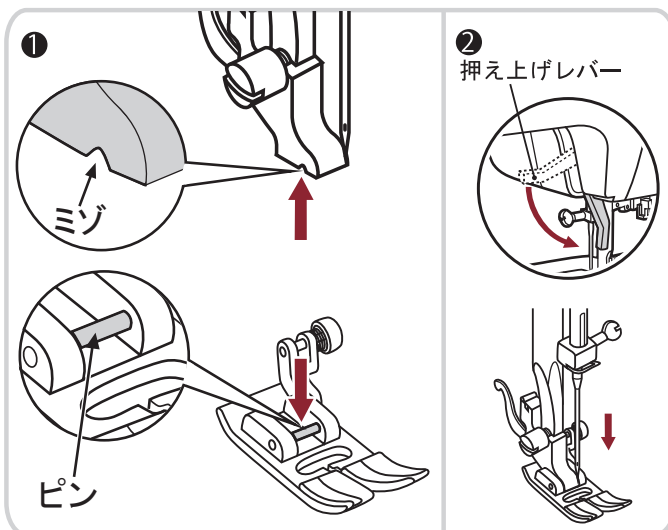
- ① 針上下ボタンを1回または2回押し、針を上げます。
押え上げレバーを上げ、押えを上げます。
- ② 電源を切ります。
指先で押えホルダーのうしろにある、押え解除レバーを手前に押すと押えが外れます。



● 押えを取り付けます

- ① 交換したい押えのピン部分を押えホルダーのミゾの真下に合わせます。
- ② 静かに押え上げレバーを下げ、押えのピンを、押えホルダーのミゾに入れます。

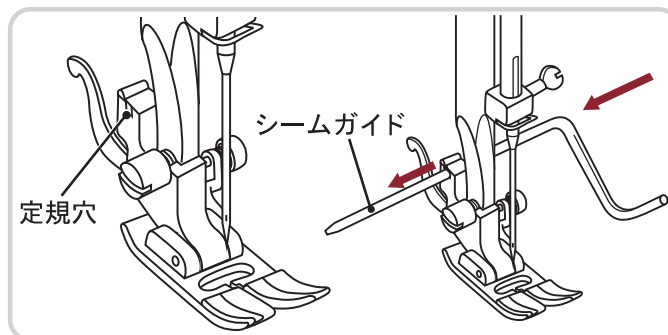
※ 押えが完全にはまらないときは、押え解除レバーを押してみてください。
どの押えも、この要領で取り外し、または取り付けることができます。



● シームガイドのつけ方

シームガイドは押えホルダーの定規穴に、図のように差し込みます。

※ シームガイドは印の線や前にぬったステッチに平行にぬうときに使うと便利です。



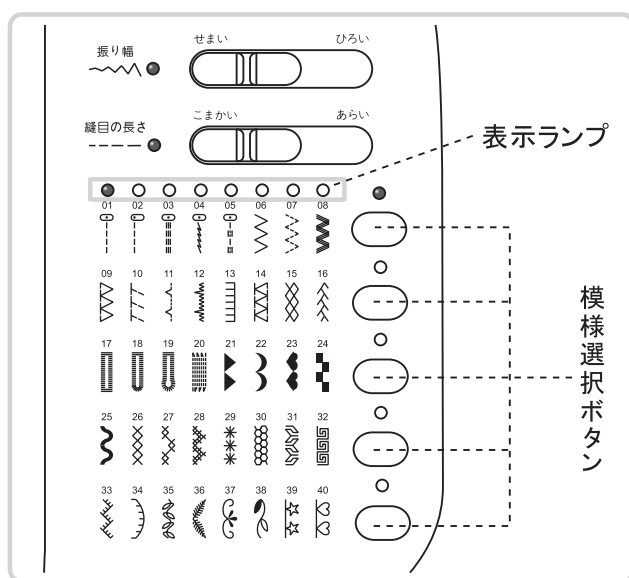
模様の選び方

電源を入ると、必ず直線ぬい(01:中基線)の上の表示ランプが点灯します。
この状態で直線ぬいをすることができます。

! 電源を切る前に選択していた模様ではありません。ご注意ください。

● ボタンの操作方法

他の模様をぬうときは、ぬいたい模様がある列の右端の模様選択ボタンを、希望の模様の一番上にある表示ランプが点灯するまで押します。



1段目: 01 02 03 04 05 06 07 08
01~08

2段目: 09 10 11 12 13 14 15 16
09~16

3段目: 17 18 19 20 21 22 23 24
17~24

4段目: 25 26 27 28 29 30 31 32
25~32

5段目: 33 34 35 36 37 38 39 40
33~40

模様選択ボタンを押すと、一番最初は、必ず選んだ段の一番左の模様になります。
模様選択ボタンを押すたびに、表示ランプは、右に移動していきます。また、一番右に、表示ランプが点灯しているとき、さらにボタンを押すと、一番左の模様に戻ります。

模様選択ボタン上の点灯しているランプと、模様01~08上にある表示ランプが、延長線上で交わる模様を選択されている模様です。表示ボタンが点灯するのは、一番上のみです。

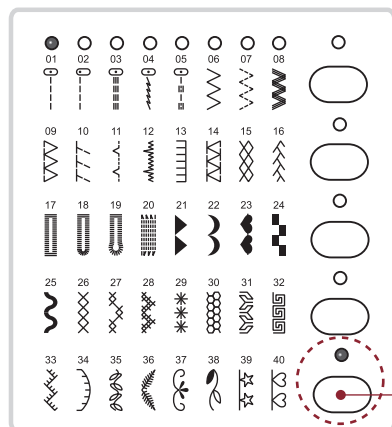
(例)



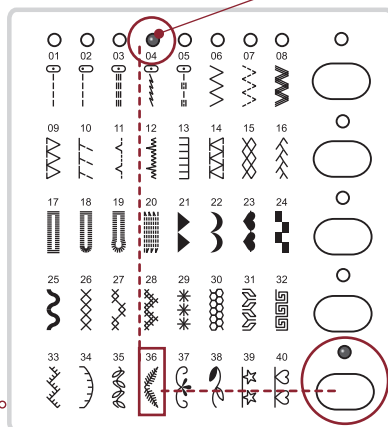
を選ぶ場合 5段目の模様選択ボタン ○ を、4回押します。

の上に表示ランプが点灯します。これで模様の選択が完了です。

選択した模様の一番上の表示ランプが点灯



4回押します。



これで が 選択できました。

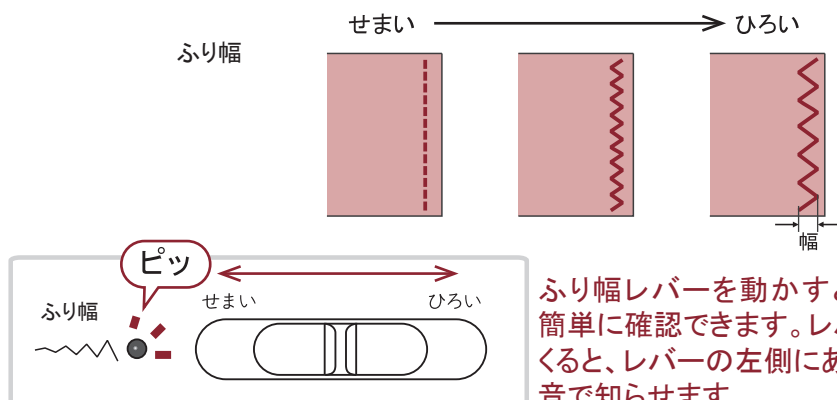
模様の選び方

ミシンはぬい目の長さやふり幅(ジグザグの幅)／直線針位置が自動設定されており、模様を選択すると、あらかじめ自動選択された、ぬい目の長さ、ふり幅でぬうことができます。

● 模様のふり幅を変更したいとき

模様を選択すると、自動的にふり幅(ジグザグの幅)が設定されています。

※模様を選んだとき、ふり幅レバーがどの位置にあったとしても、自動設定値になっています。



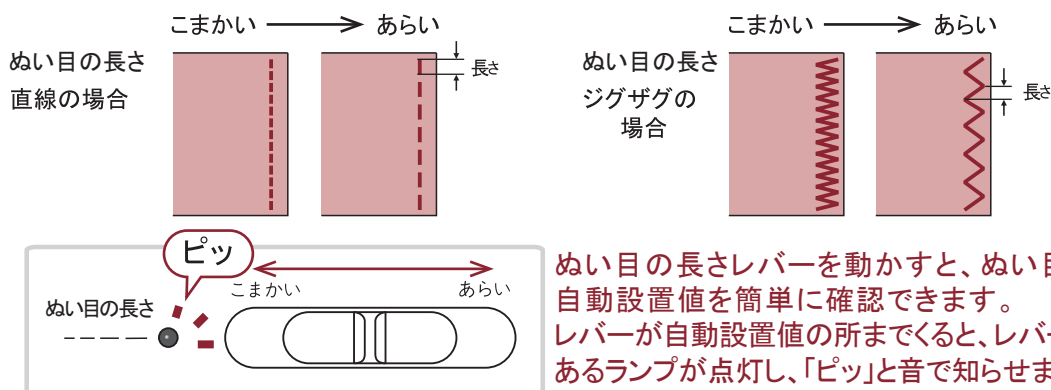
ふり幅レバーを動かすと、ふり幅の自動設置値を簡単に確認できます。レバーが自動設置値の所までくると、レバーの左側にあるランプが点灯し、「ピッ」と音で知らせます。

お好みのふり幅を手動設定したい場合は、確認した自動設定値から開始し、レバーを左右の調整したい位置まで動かします。手動設置位置にくるたびに、表示ランプが3回点滅し「ピッ」と音がなります。

● 模様のぬい目の長さを変更したいとき

模様を選択すると、自動的にぬい目の長さが設定されています。

※模様を選んだとき、ぬい目の長さレバーがどの位置にあったとしても、自動設定値になっています。



ぬい目の長さレバーを動かすと、ぬい目の長さの自動設置値を簡単に確認できます。レバーが自動設置値の所までくると、レバーの左側にあるランプが点灯し、「ピッ」と音で知らせます。

お好みのぬい目の長さを手動設定したい場合は、確認した自動設定値から開始し、レバーを左右の調整したい位置まで動かします。手動設置位置にくるたびに、表示ランプが3回点滅し「ピッ」と音がなります。

※模様によって手動設定位置の数が多いものや少ないものがあります。

詳しくは模様の一覧表の「手動」の数値をご確認下さい。

※ぬっている間でもレバーを動かすと、手動設定位置が変更できます。

※模様の直線針位置の設定変更については、29ページをご参照ください。

模様の選び方

● ぬい模様一覧

模 様		ふり幅(mm)		ぬい目の長さ(mm)		押え番号	返しぬい	止めぬい
		自動	手動	自動	手動			
実用模様	01	3.5	0.0~7.0	2.5	0.0~4.5	T	*	*
	02	0.0	0.0~7.0	2.5	0.0~4.5	T	*	*
	03	3.5	0.0~7.0	2.5	1.0~3.0	T	*	*
	04	3.5	1.0~6.0	2.5	1.0~3.0	T	*	*
	05	3.5	0.0~7.0	2.5	1.5~3.0	T	*	*
	06	5.0	0.0~7.0	2.0	0.3~4.5	T	*	*
	07	5.0	2.0~7.0	1.0	0.3~4.5	T	*	*
	08	5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	T	*	*
	09	5.0	3.5~7.0	2.5	1.0~3.0	E	*	*
	10	5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	T	*	*
	11	3.5	2.5~7.0	2.0	0.5~4.5	F	*	*
	12	3.5	2.5~7.0	1.0	0.5~4.5	F	*	*
	13	3.5	2.5~7.0	2.5	1.5~3.0	T	*	*
	14	5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	T	*	*
	15	7.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	A	*	*
	16	5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	A	*	*
ボタンホール	17	5.0	2.5~7.0	0.5	0.3~1.0	D		
	18	5.0	2.5~5.5	0.5	0.3~1.0	D		
	19	7.0	5.5~7.0	0.5	0.3~1.0	D		
つくろい模様	20	7.0	3.5~7.0	2.0	1.0~2.0	D		
サテン模様	21	7.0	2.5~7.0	0.5	0.3~1.0	A	*	*
	22	7.0	2.5~7.0	0.5	0.3~1.0	A	*	*
	23	7.0	2.5~7.0	0.5	0.3~1.0	A	*	*
	24	7.0	2.5~7.0	0.5	0.3~1.0	A	*	*
	25	7.0	2.5~7.0	0.5	0.3~1.0	A	*	*
クロス模様	26	5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	A	*	*
	27	4.0	3.0~7.0	1.0	1.0~3.0	A	*	*
	28	6.0	5.0~7.0	1.0	1.0~3.0	A	*	*
飾り模様	29	5.0	3.0~7.0	3.0	1.5~3.0	A	*	*
	30	7.0	3.0~7.0	2.0	1.0~3.0	T	*	*
	31	7.0	2.5~7.0	2.0	1.0~3.0	T	*	*
	32	5.0	2.5~7.0	2.5	1.5~3.0	T	*	*
	33	7.0	2.5~7.0	1.5	1.0~3.0	A	*	*
	34	7.0	2.5~7.0	2.5	1.0~4.5	T	*	*
	35	5.0	3.5~7.0	1.0	1.0~3.0	A	*	*
	36	7.0	2.5~7.0	3.0	2.0~3.0	A	*	*
	37	6.0	2.5~7.0	2.0	1.5~3.0	A	*	*
	38	7.0	2.5~7.0	2.5	1.5~3.0	A	*	*
	39	5.0	2.5~7.0	2.0	1.0~3.0	T	*	*
	40	5.0	2.5~7.0	2.0	1.0~3.0	T	*	*

*は返しぬい、止めぬいをすることができます。

糸調子の合わせ方

- ① 通常、上糸調節ダイヤルを「標準」に合わせると普通地に使用される糸(#50~60)でぬった場合に、糸調子が合うように設定されています。

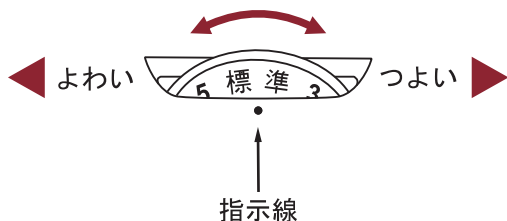
- ② 右図のように、上糸と下糸が布の中間で交差し、かつ、布や糸がつれたり、たるんだりしていない状態が正常です。布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合や、ギャザー寄せをするときは、上糸調節ダイヤルを調節して糸調子を合わせてください。

- ③ 布の表の糸が1本になっているときは、ボビンが正しくセットされていません。正しくセットし直してください。

または、上糸調子が強いので、上糸調節ダイヤルを左の方向(◀よわい)に回し、ダイヤルの数字を小さくして糸調子を弱くしてください。

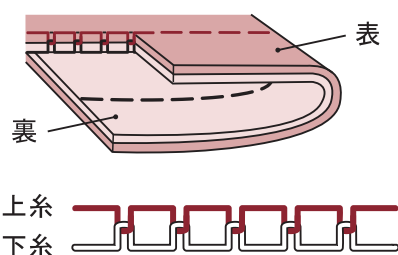
- ④ 布の裏の糸が1本になっているときは、上糸調子が弱いので、上糸調節ダイヤルを右の方向(つよい▶)に回し、ダイヤルの数字を大きくして糸調子を強くしてください。

①



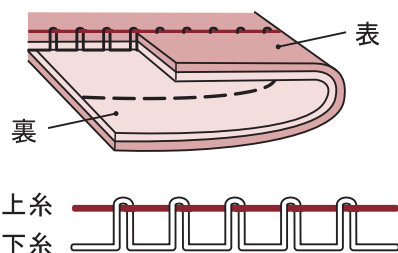
● 上糸調節ダイヤル

②



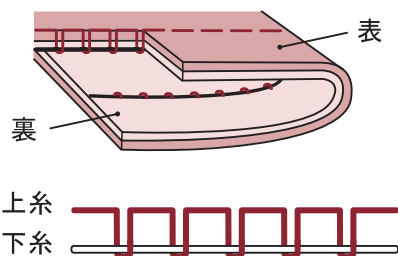
● 正しく調節されている場合

③



● 上糸が強い場合

④

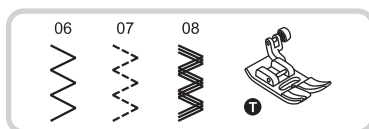
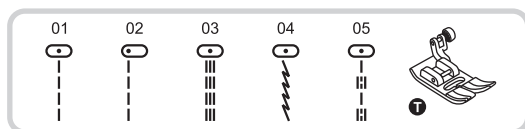


● 上糸が弱い場合

基本ぬい(直線ぬいとジグザグぬい)

基本となる直線ぬいおよびジグザグぬいをします。

直線ぬいは地ぬい・ギャザー・ピンタックなど、ジグザグぬいは、通常ほつれ止めなどに使用します。



※模様を選ぶと、ぬい目の長さやふり幅(ジグザグの幅)／直線針位置が自動設定されています。自動数値のままぬう場合は、設置を変更する必要はありません。

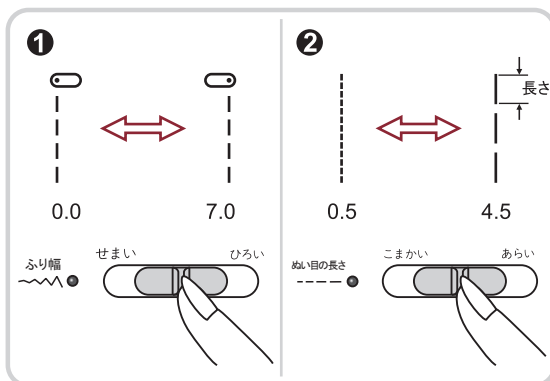
● 直線ぬい

① ぬいはじめの針位置が指定できます

直線ぬいは、ふり幅の代わりに、針位置を左～右の範囲で変更することができます。ふり幅レバーを左にすると、今選んでいる針位置より左に移動し、レバーを右にすると今選んでいる位置より右に移動します。

② ぬい目の長さをきめます

ぬい目の長さレバーを左にすると、ぬい目が細くなります。
ぬい目の長さレバーを右にすると、ぬい目があらかくなります。



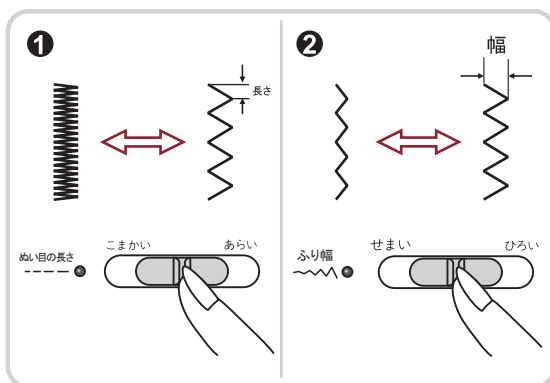
● ジグザグぬい

① ぬい目の長さをきめます

ぬい目の長さレバーを左にすると、ぬい目が細くなります。
ぬい目の長さレバーを右にすると、ぬい目があらかくなります。

② ふり幅をきめます

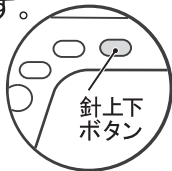
ふり幅レバーを左にすると、ぬい目の幅が狭くなります。
ふり幅レバーを右にすると、ぬい目の幅が広がります。



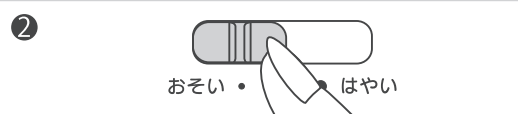
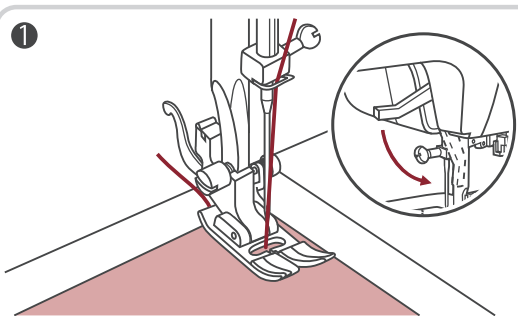
基本ぬい(直線ぬいとジグザグぬい)

● 基本のぬい方

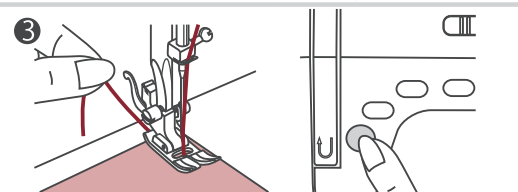
- ① 押えを確かめます。(ジグザグ押え)
針上下ボタンを押し、針を上へ上げ、
布地を入れ押えを下げます。



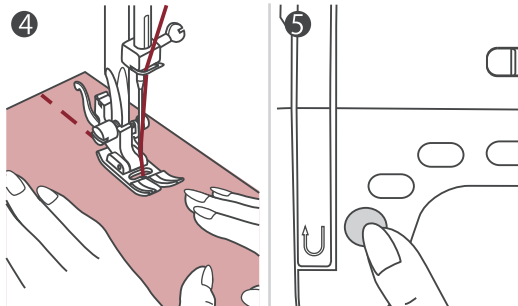
- ② ぬい速度を設定します。



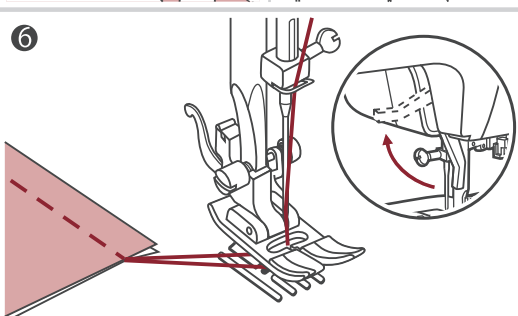
- ③ 糸はしを軽く後ろに持ちながら、スタート・ストップボタンを押し、スタートさせます。



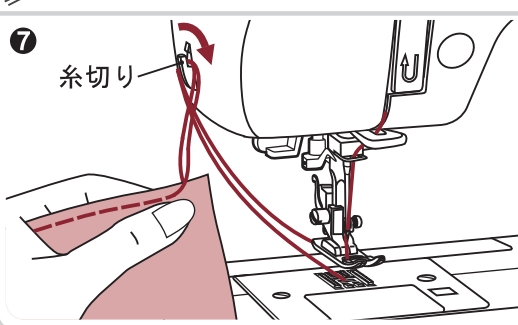
- ④ 布地に軽く手をそえます。ぬっている間は布地を無理に引っ張らないようにします。



- ⑤ スタート・ストップを押してストップします。
針が下にある場合は、針上下ボタンを押し
針を上げます。



- ⑥ 押えを上げ、布地を後ろへ引いて取り出します。

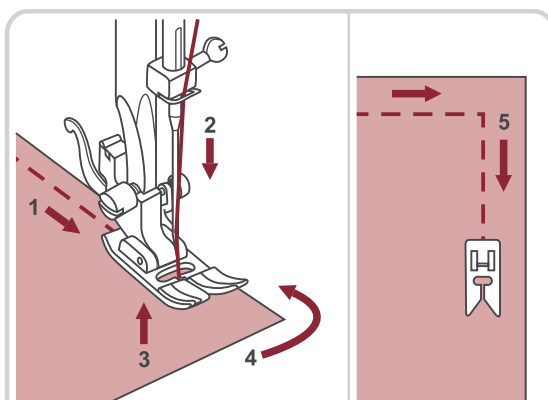


- ⑦ 糸切りに糸をかけて手前に引くと、
糸が切れます。

基本ぬい(直線ぬいとジグザグぬい)

● ぬい方向をかえるには

- ① 布地の角まで来たら、ストップします。
- ② 針上下ボタンを押し、針を下げ布に刺します。
- ③ 押えを上げます。
- ④ 針を刺したまま布地を回し、ぬい方向にセットします。
- ⑤ 押えを下げて、ぬい始めます。



● 返しぬい(模様01-06)

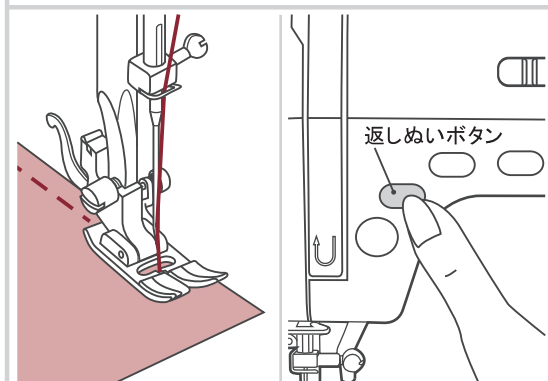
ぬい始めやぬい終わりに、3～5針返しぬいをしておくで、ぬい目がほつれず、丈夫になります。

ミシンが停止状態で返しぬいボタンを押すと、押している間は返しぬいを、手を放すとミシンは停止します。

ぬい始めからほつれ止めを行う場合は、布はしから3～5針分手前に針を刺します。

※模様07-16、21-40のときは、その場で3針止めぬいをします。

※模様17-20のときは、ボタンを押しても機能しません。

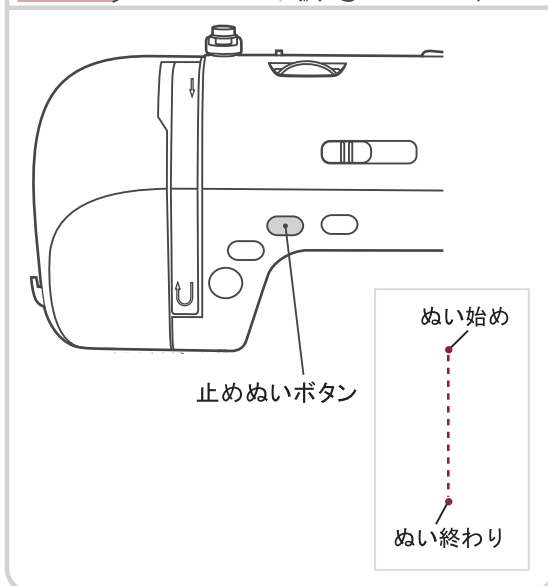


● 止めぬい

ぬい終わりに、自動で止めぬいをすることができます。

- ① 模様を選びます。
- ② ぬい始めの位置で止めぬいボタンを押すと、3針止めぬいをして止まります。
- ③ スタート・ストップボタンを押します。
- ④ ぬい終わりの位置で、止めぬいボタンを押すと、3針止めぬいをして自動的に止まります。

※模様17-20のときは、ボタンを押しても機能しません。



基本ぬい(直線ぬいとジグザグぬい)

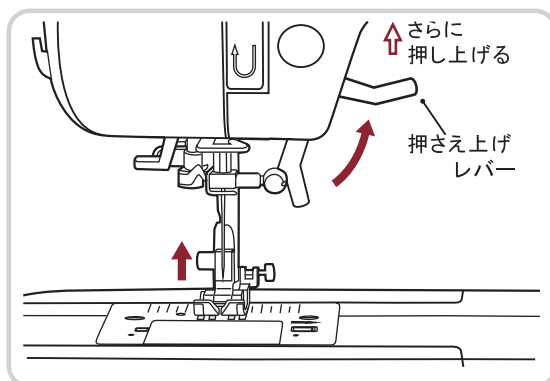
●厚地のぬい方

○厚い布を入れるとき

布を何枚か重ねてぬうときや、厚い布地をぬうとき、これらの布を押えの下に入れやすくするため、押えをさらに上にあげることができます。

※この時レバーは固定されません。

手を放すとレバーは普通に上げた位置に戻ります。

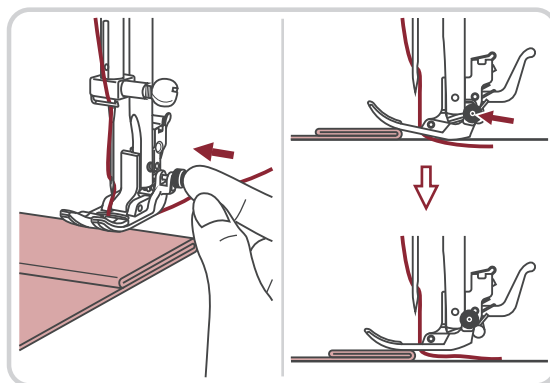


○厚地の布はしのぬい始め

ぬい始めの位置に針を刺し、基本押えの右側にある黒ボタンを押し込みます。

ボタンを押したままで、押えを下げます。

押えが水平なことを確認したら、ボタンから手を放し、ぬい始めます。

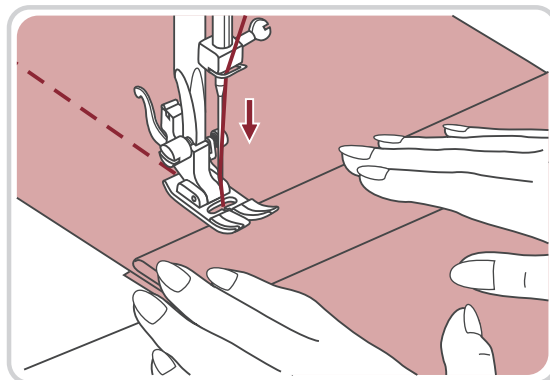


●段ぬい

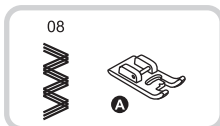
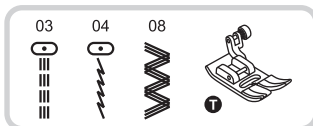
布地が重なって、急に厚くなった部分は針を布に刺し、押えを上げ、基本押えの黒ボタンを押し込みます。

ボタンを押したまま押えを下げ、押えが水平なことを確認してから、ボタンから手を放し、ぬい始めます。

段ぬいが終わると、自動でボタンは解除されます。



伸縮ぬい



このぬい目は伸縮性があるので、ニットやジャージなどの伸縮性のある布地のぬいに適しています。

・伸縮強化ぬい03

直線の三重ぬいです。

丈夫で伸縮性のあるぬい目なので、力がかかってほつれやすい部分やデニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。

・伸縮強化ぬい04

伸縮性のある直線状のぬいです。伸び縮みがきき、布地を伸ばしてもぬい糸は切れません。

いずれも、伸びる布の地ぬいなどにお使いください。

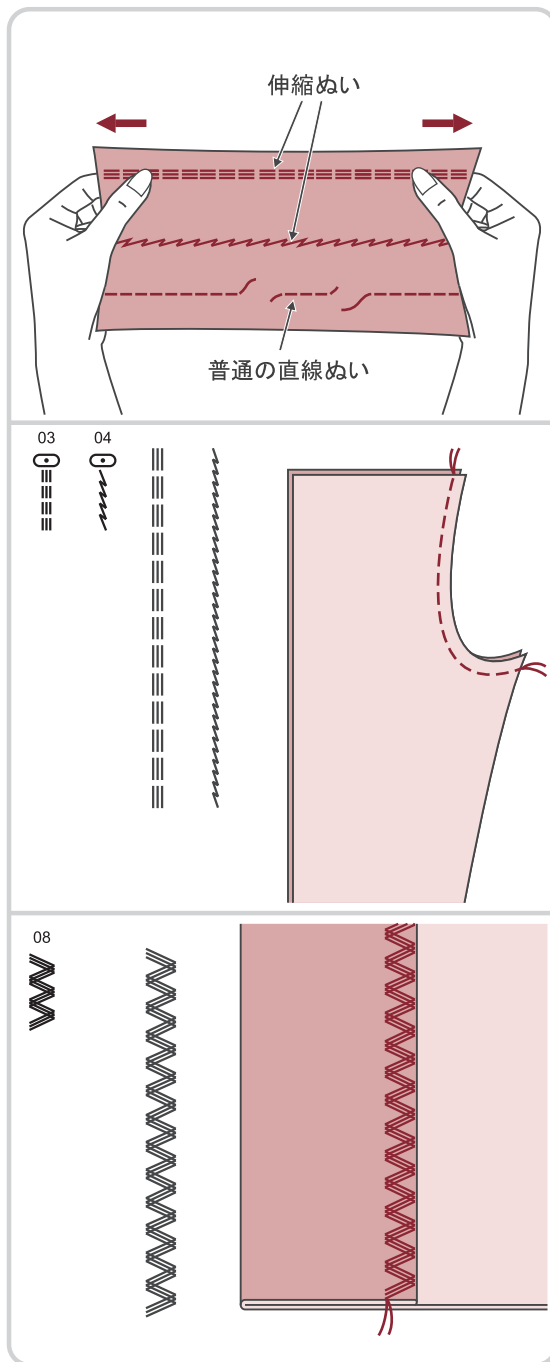
ぬい方は、直線ぬいと同じです。

・三重ジグザグぬい08

ジグザグの三重ぬいです。

こちらも伸縮性のある布地のぬい合わせに最適です。

飾りぬいとして使用する場合は、必ずサテン押え(A)に付け替えて使用してください。



裁ち目かがり

裁断した布はしがほつれないように縁かがりをします。

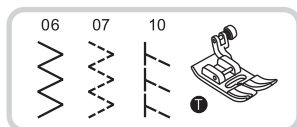


注意：ケガ防止のために

○押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

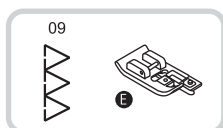
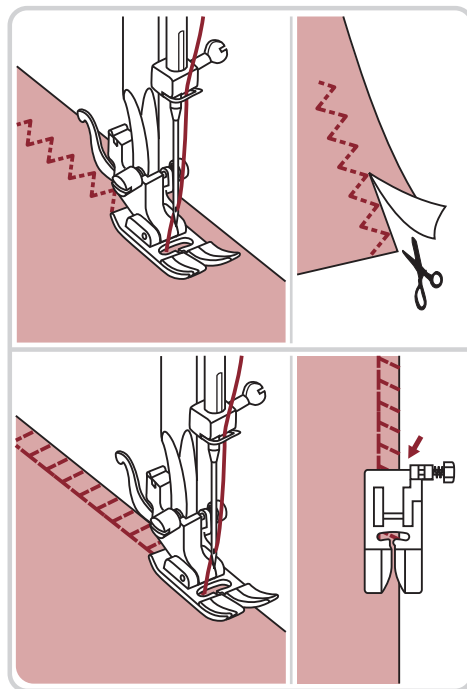
○縁かがり押えを使用するときは、ふり幅を“5.0”より小さくしないでください。

針が押えに当たり、針が折れるなどして危険です。



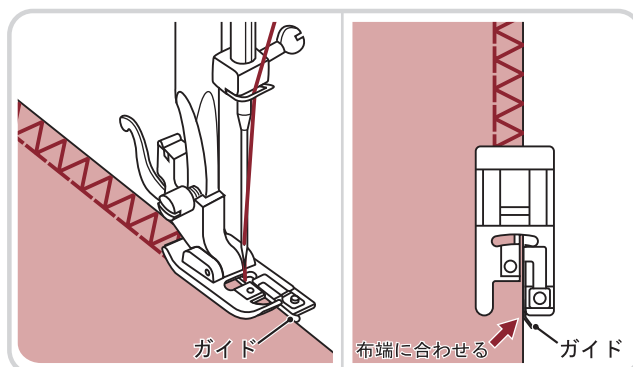
ほつれやすい布や伸縮性のある布地のほつれ止め、布はしの反り返りなどに利用します。

ニット地のほつれ止めは、ぬい代を少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。



E 縁かがり押えを使用します。

布はしをガイドに合わせてぬいます。
糸調子は弱めで、上下糸はしで交差するように調整しましょう。

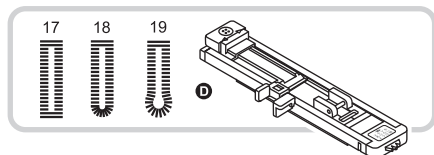


※縁かがり押えを使用するときは、ぬう前に必ず押えが針に当たらないことを確認してください。

※模様のふり幅は5.0mm以下にしないでください。
針が押えに当たり、針が折れるなどして危険です。

ボタンホール

ボタンホールは次の3つの模様から選びます。



-  ボタン穴かがり シャツ・ブラウスなどのボタンホール。
-  ネムリ穴かがり シャツ・ブラウスなどの横向きのボタンホールを作るとき。
-  ハトメ穴かがり コート・ジャケットなどの厚いボタンホールを作るとき。

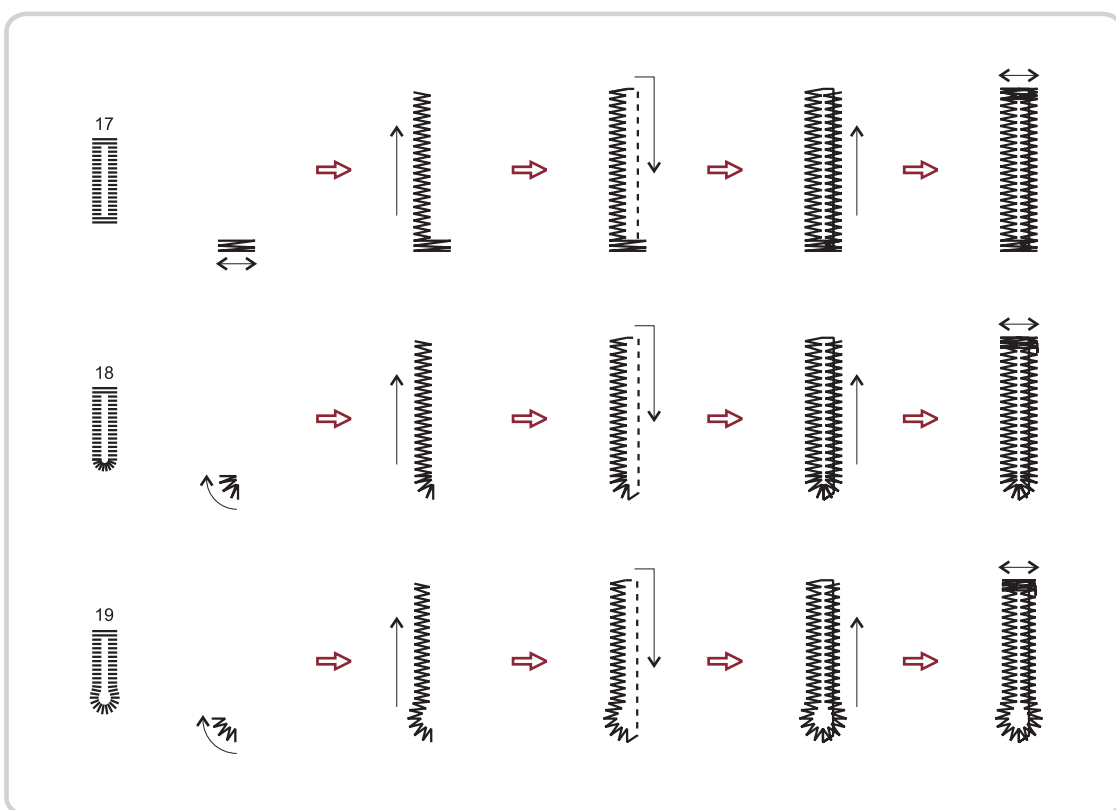


注意：ケガ防止のために

○押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

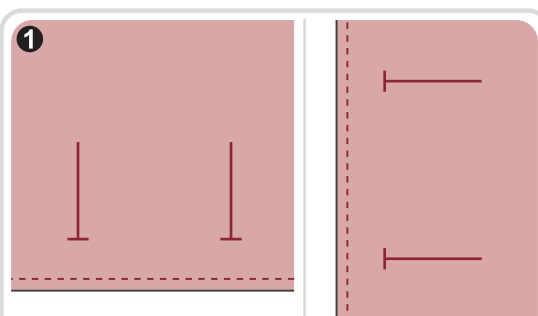
「ボタンの直径+厚み」3cmまでのボタンホールができます。
ぬうときは、必ずぬうものと同じ布地（残り布）で試しぬいを行ってからぬってください。

ボタンホールは次の順序でぬわれます。

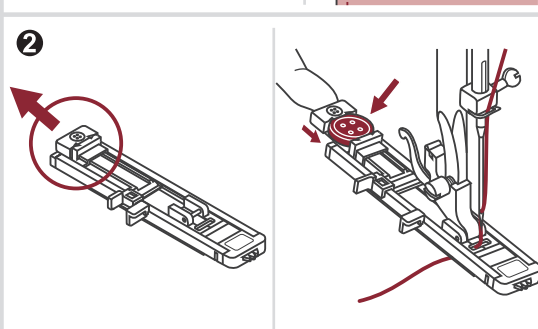


ボタンホール

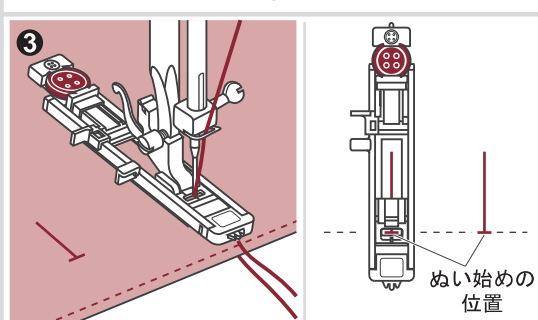
- ① ボタンホールをする位置にチャコペンなどでしるしをつけます。



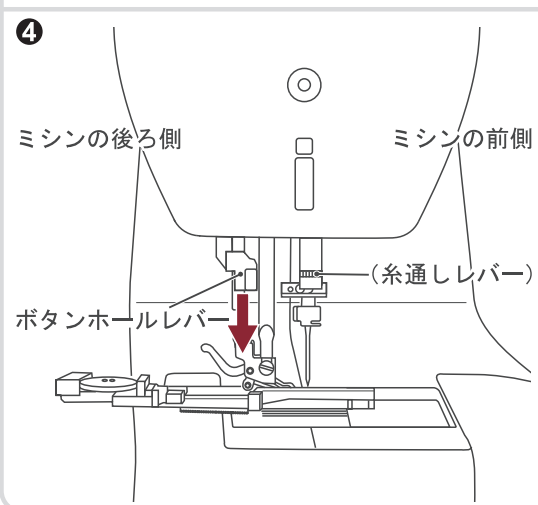
- ② ボタンホール押え(D)の後ろを引き、開いた部分にボタンを乗せ、はさみます。通常ついている押えを取り外し、ボタンホール押えを取り付けます。



- ③ 布を入れ、ぬい始めの位置に針を刺して、押えを下げてください。糸は押えの下に通し、手前に出しておいてください。

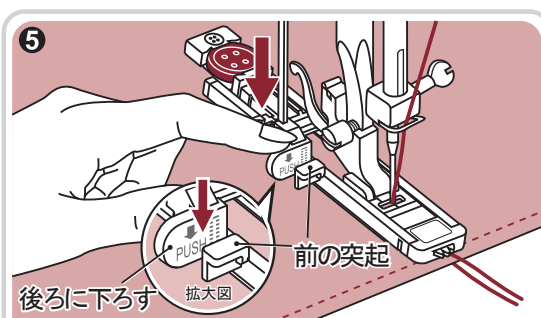


- ④ ミシンの後ろ側にある、ボタンホールレバーを下に引き、完全に止まるまで下げます。

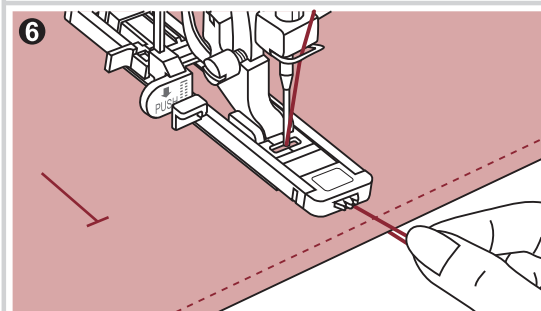


ボタンホール

- ⑤ ボタンホールレバーは、必ずボタンホール押えの左側にある、2カ所ある突起部の前の突起の後ろ側に下りるようにセットしてください。

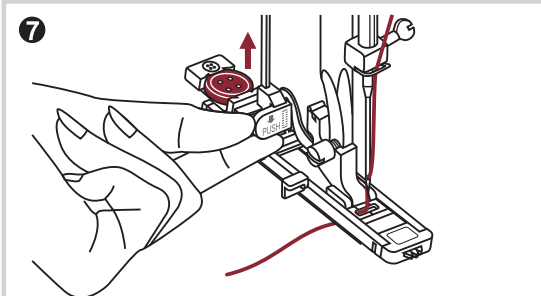


- ⑥ 糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。
※糸は引っ張らないようにしてください。

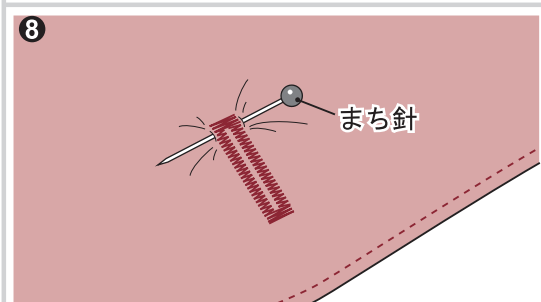


ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

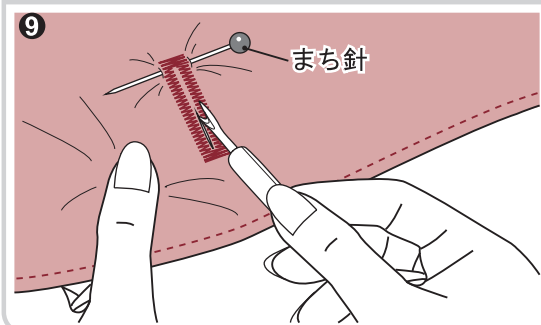
- ⑦ 押えを上げて生地を取り出し、糸を切ります。
ボタンホールレバーを引き上げて、元の位置に戻します。



- ⑧ ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内部にまち針を刺します。
※まち針は付属品ではありません



- ⑨ 付属のリッパーでボタンホールを開きます。



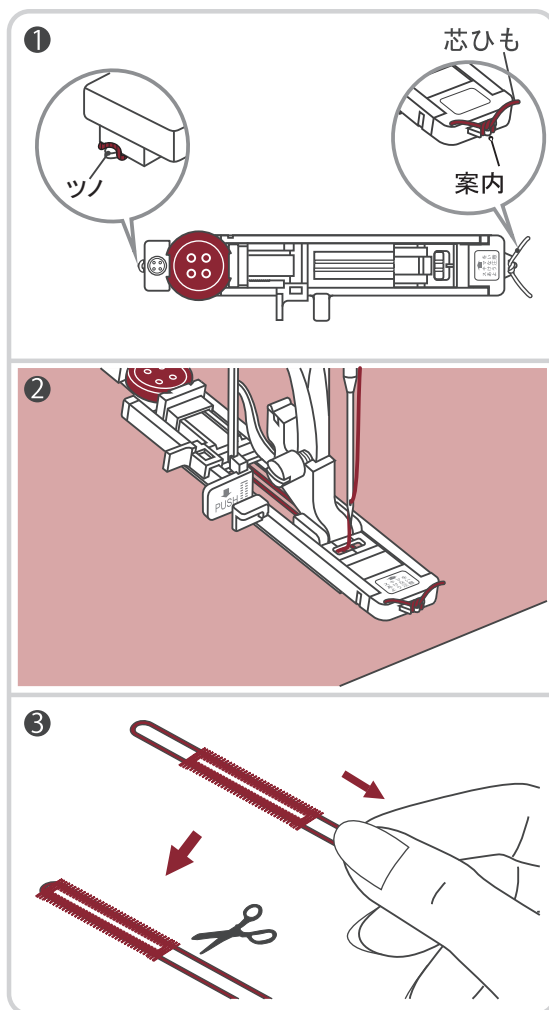
! 注意：ケガ防止のために
○リッパーで穴を開けるときの、リッパーの先端に手や指を置かないでください。
すべったときにケガをするおそれがあります。

ボタンホール

● 芯入りボタンホール

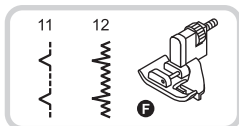
伸びる布地にボタンホールをぬうときは、ボタンホールに芯ひもを入れてください。

- ① 芯ひもの輪を押えの後ろ側にあるツノにかけ、押えの下から手前に平行になるように引き出し、前側の案内にはさみます。
- ② 通常のボタンホールと同じようにぬいます。
- ③ 左側の芯ひもを引いて、たるみを無くし余分な糸を切ります。



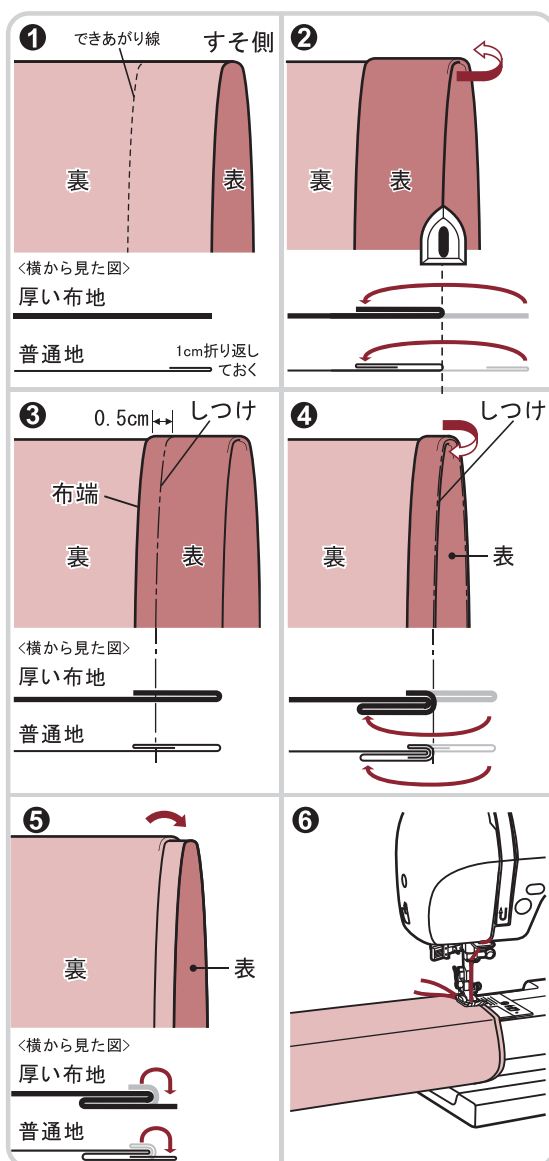
まつりぬい

布地の表面に目立たないぬい目をつくるぬい方です。
ズボンやスカートの裾、袖口の裁縫に用います。お子さまの服のたけ直しなどにも
ぜひご利用ください。



注意：ケガ防止のために
○押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

- ① 裾上げをするスカートやズボンを裏返します。
- ② できあがり線で布を折り返し、アイロンをかけます。
- ③ 布はしから約0.5cmのところにチャコペンで印をつけ、しつけをします。
- ④ しつけをしたところから、内側へ折り込みます。
- ⑤ 布はしを開きます。
- ⑥ ミシンをフリーアームにして、アームに布地を入れ、布地を回すことができるのを確認します。(7ページ参照)

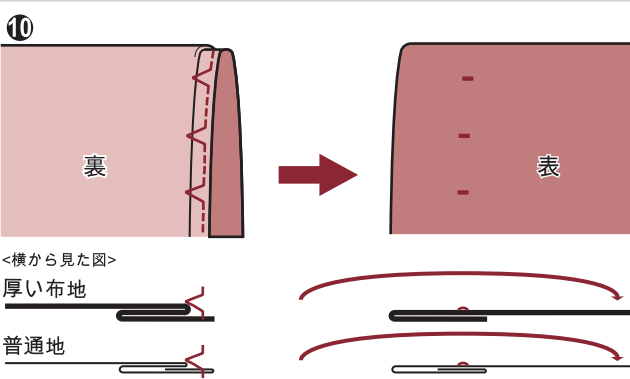
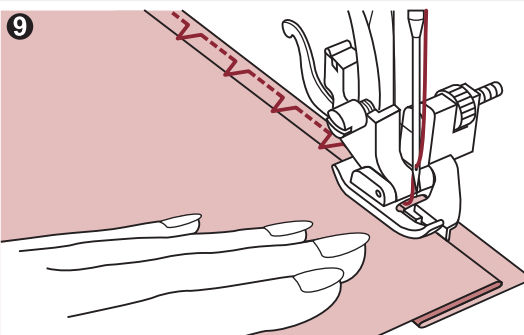
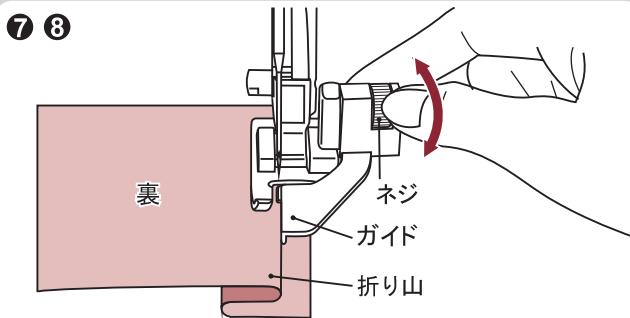


⑦ 左の針落ちがわずかに折り山にかかるよう、布地をセットします。

⑧ 折り山に押えのガイドを合わせて、押えを下げます。
ブラインドステッチ押え(F)のネジを回して、折り山に押えのガイドがピッタリとあたるよう調節してください。

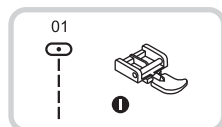
⑨ 折り山が押えのガイドにあたるように、生地を手を添えながらぬいます。

⑩ しつけをほどき、布地を表に返します。



ファスナー付け

ファスナーは機能的なうえ、装飾にもなります。



- ！ 注意：ケガ防止のために**
- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
 - ファスナー付けは、必ず01(直線)だけを使用してください。
- 他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたりして危険です。

ファスナーの付け方には「つきあわせ」と「脇あき」の方法があります。

● つきあわせ

- ① 中表にして布を合わせ、図の様にあき止まりまで地ぬいをします。あき部分はしつけをします。

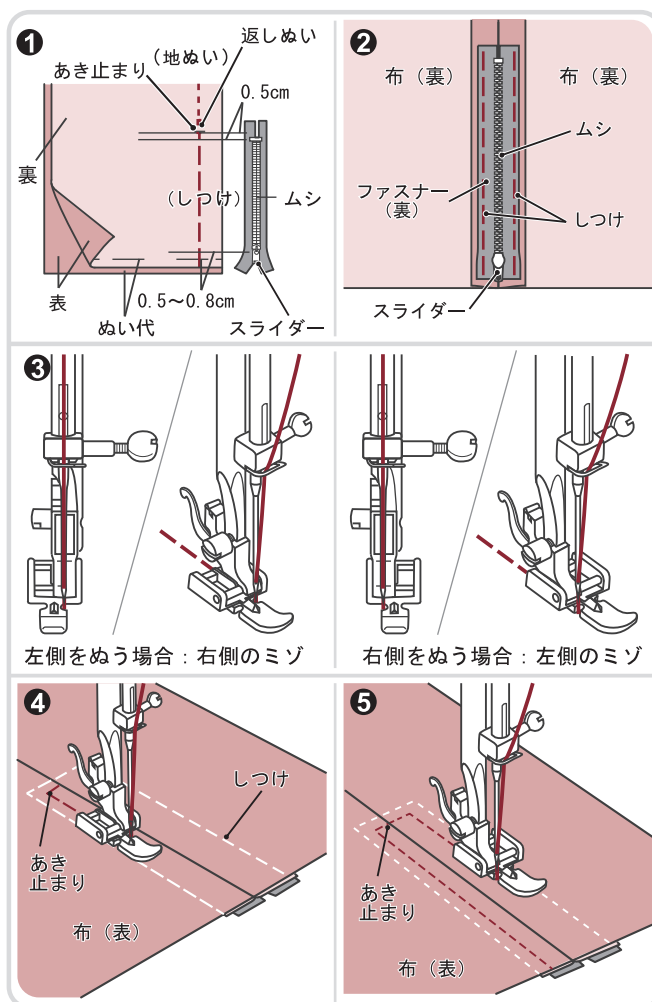
※数値はあくまでも目安であり、布の厚さや作品により変わります。

- ② ぬい代をわり、ぬい目にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけをします。しつけはほどきやすいよう粗めでぬいます。

- ③ ファスナー押えを取り付けます。ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のミゾを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のミゾをホルダーに入れます。

- ④ ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。布の合わせ目から0.7~1cm離してぬいます。

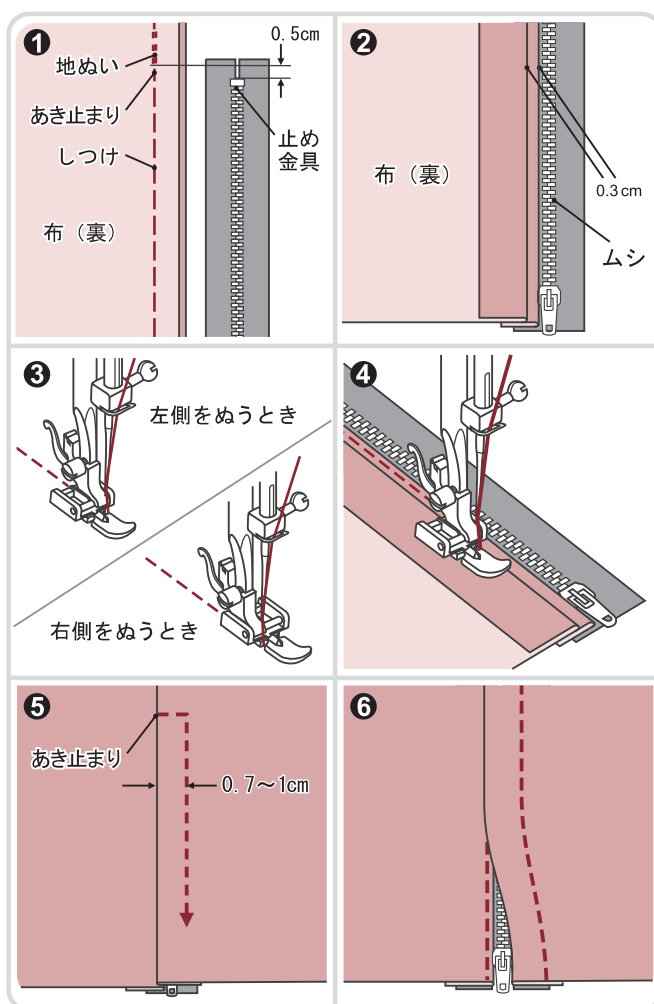
- ⑤ あき止まりと右側をぬい、しつけをとります。右側も同様に、0.7~1cm離してぬいます。



ファスナー付け

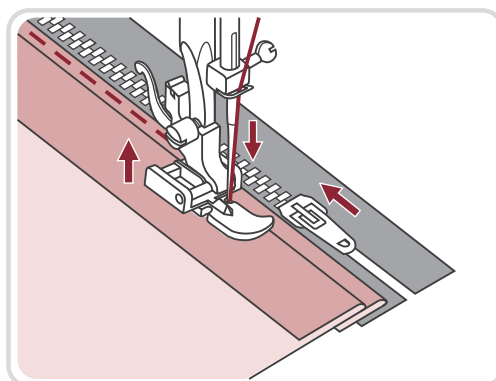
● 脇あき

- ① 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。
あき部分はしつけをします。
- ② ぬい代をわり、下の布のぬい代を0.3cm出して折り目をつけ、折り山をムシに合わせます。
- ③ ファスナー押え(I)を取り付けます。
ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のミゾを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のミゾをホルダーに入れます。
- ④ ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。押えがファスナーのムシに乗らないようにしてぬいます。
- ⑤ 上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。右側は布の折り目から0.7~1cm離してぬいます。
- ⑥ スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。



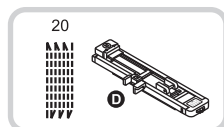
● スライダーをよけてぬうには

1. スライダーの手前でミシンを止めます。
2. 針を下げて布に刺します。
3. 押えを上げてスライダーを向こう側に下ろします。
4. 押えを下げてぬい続けます。

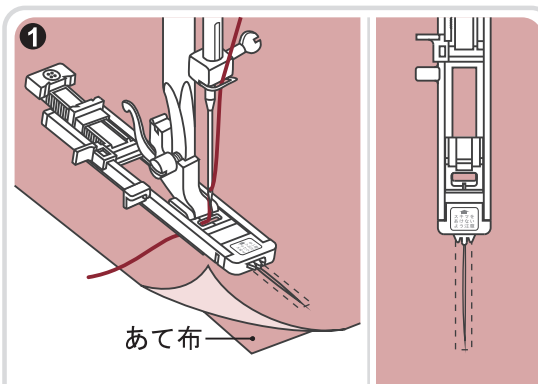


つくろいぬい

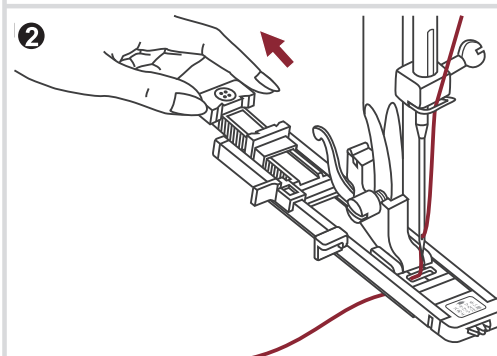
服やズボンのちょっとしたかぎ裂きなどの破れをつくろいます。



- ① かぎ裂きなどをした布地の下に、あて布を重ねます。
針の位置を指定します。
かぎ裂きの中央上部に押えを下ろします。



- ② ボタンホール押え (D) の後ろを引き、かぎ裂きにあう長さに合わせます。

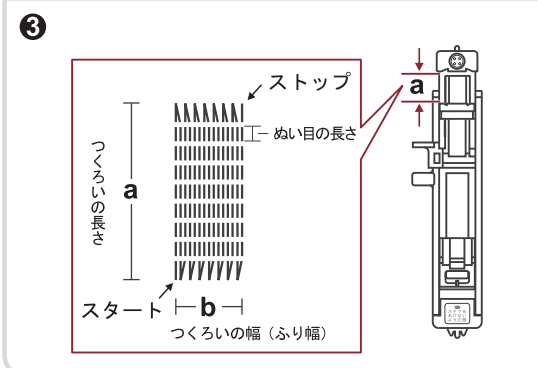


- ③ つくろいの大きさは変えられます。

ぬい目の長さ: 1~2mm

ふり幅(つくろいの幅): 3.5~7.0mm

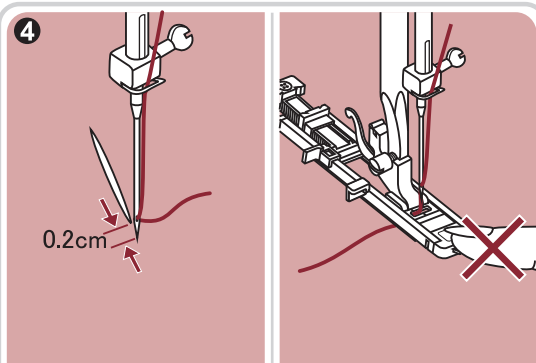
- a. つくろいの長さ
- b. つくろいの幅



つくろいぬい

- ④ かぎ裂きより0.2cm手前に針を刺します。
押えを下ろします。

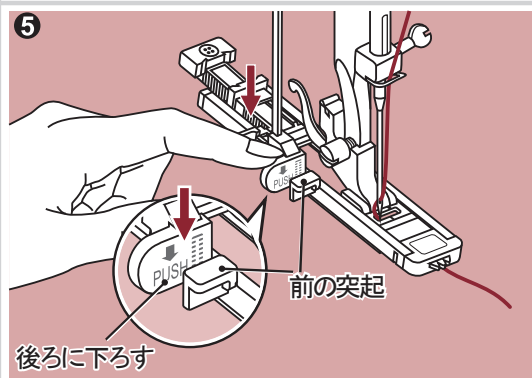
押えを下ろすとき、押えの手前を押さない
ようにしてください。
かぎ裂きをふさぐ正しい大きさのつくろい
ぬいができません。



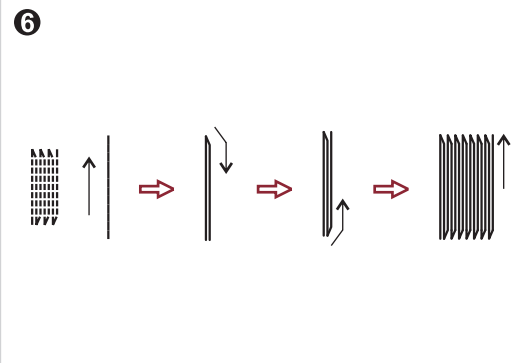
- ⑤ 上糸は押えの下を通し、手前に出して
おきます。

通常のボタンホールの手順と同じように、
ボタンホールレバーを、必ずボタンホール
押えの左側にある、2カ所ある突起部の
前の突起の後ろ側に下りるようにセットして
ください。

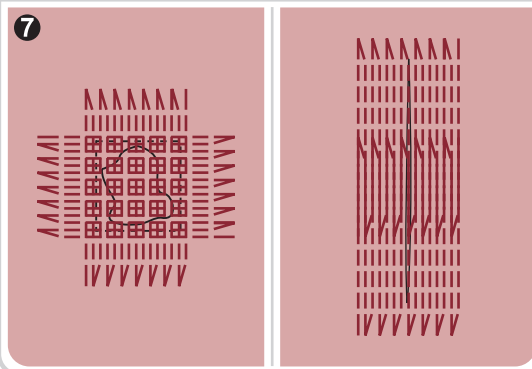
左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタート
させます。



- ⑥ つくろい目が図に示すように、押えの
前から後ろへと自動的にぬいあがります。

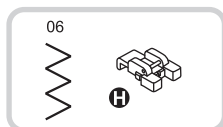


- ⑦ 大きなつくろいをするときは、針位置を
変えながら、何回かぬうとよいでしょう。



ボタン付け

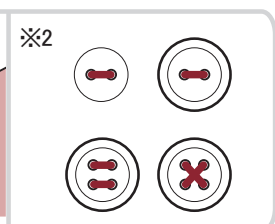
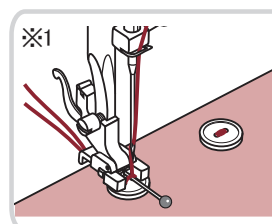
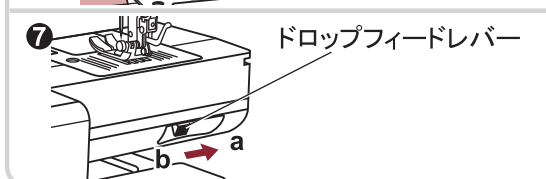
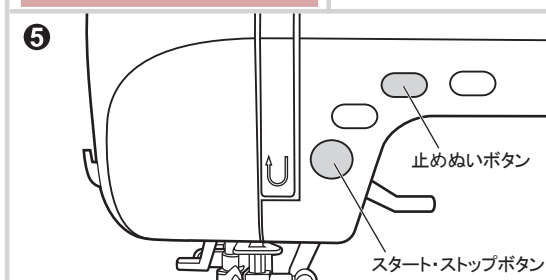
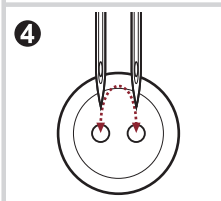
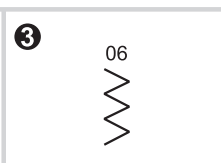
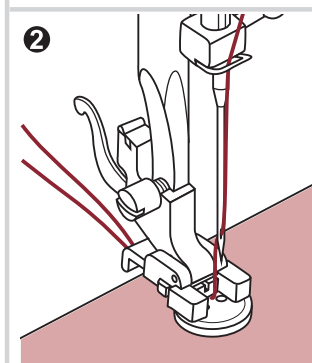
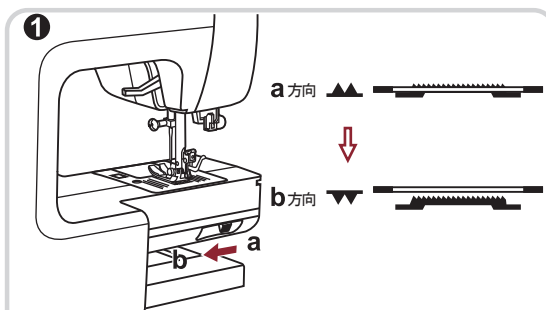
ボタン付け押えを取り付けます。



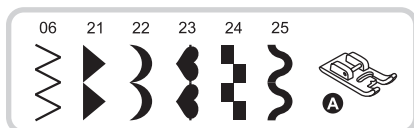
- ① ドロップフィードレバーで送り歯を下げます。
(10ページ参照)
- ② 布地の上にボタンを置きます。
はずみ車を手前に回し、針が左にきたとき
ボタンの左の穴に下りるようにセットします。
ボタンの左右の穴が真横に来るようにして
押えを下げます。
- ③ ジグザグぬい  を選び、針が左に来たとき
左の穴の中央に入るよう、ふり幅レバーを
使って、ふり幅を調整します。
- ④ はずみ車を手前に回して、針の右の穴に入るか
確認します。入らないときは、ふり幅をもう一度
調整してください。
- ⑤ スピードをゆっくりにして、スタートします。
10針くらいぬったら、ストップします。
ぬう前に、止めぬいボタンを押しておくで、
ぬい始めとぬい終わりに数針止めぬいを
して止まります。
- ⑥ 針と押えを上げ、ミシン左側の糸切りで糸を
切ります。布をひっくり返し、ぬい終わりの
下糸を引いて上糸を裏側に出し、上糸と
下糸を結びます。
- ⑦ ドロップフィードレバーを(a)方向に移動し、
はずみ車を手前に回し、送り歯を上げて
おきましょう。(10ページ参照)

※1 ボタンに根巻きなどの余裕をもたせたいと
きは、ボタンの上にまち針をのせてぬいます。
※まち針は付属品ではありません。

※2 4つの穴を持ったボタンについては、先に
2つの穴をぬい、それから残りの2つの穴を
ぬいます。



飾りぬい

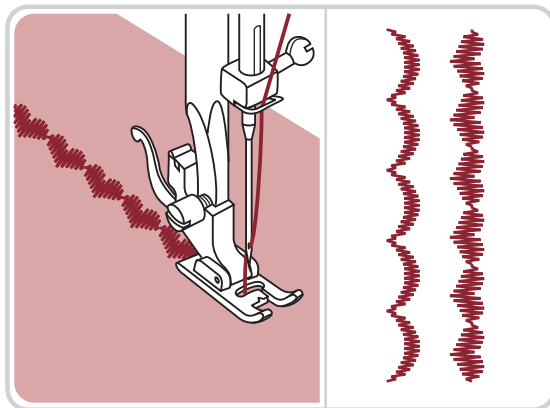


模様を連続してぬうことにより、装飾的な効果を得ることができます。

サテン押え(A)を取り付けます。

上記以外の飾り模様については、27ページからの「模様の選び方」をご覧ください、必ず正しい押えに交換してぬってください。

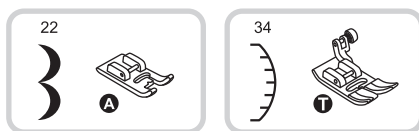
希望した飾りぬいをするために、ぬい目の長さやふり幅を、それぞれの調節レバーで調節することができます。



ぬいたい布の切れはしを利用して、希望した長さや幅になるかどうか、試しぬいをしてください。

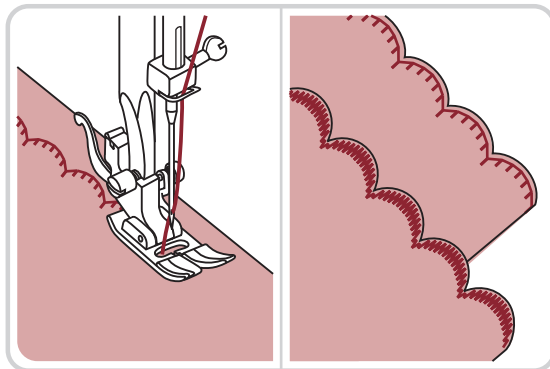
薄い布地をぬう場合、布地の下に薄い紙を敷いて、布地と一緒にぬうとよいでしょう。ぬい終わったら、紙を破いて取り除きます。

スカラップ

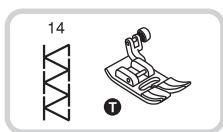


布を表から布はしを1cmくらい残してぬいます。

糸を切らないように、外側の布をぬい目にそって切り落とします。

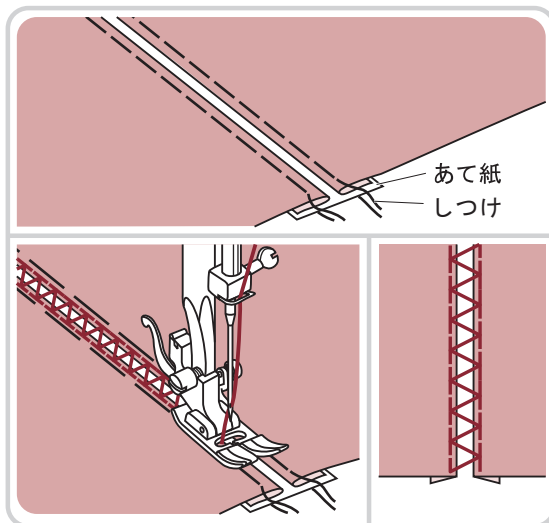


ファゴティング

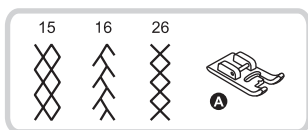
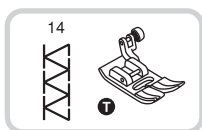


布地と布地の間を離して、糸でかがる方法です。

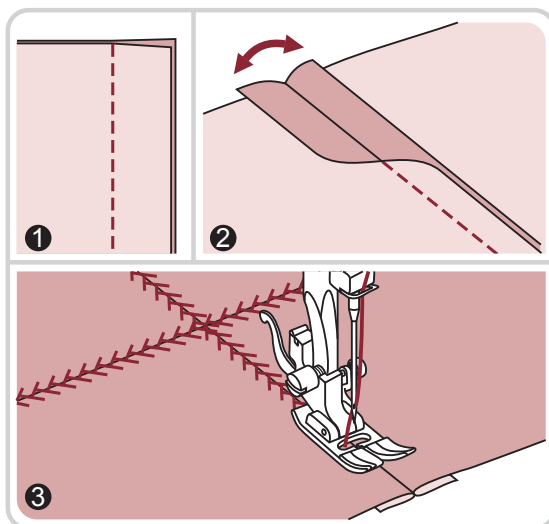
- ① 布はしと布はしの間隔を0.3～0.4cmあけて、布に薄いあて紙をし、しつけをします。
- ② 布の表から、間隔の中央を中心にしてぬいます。
- ③ あて紙をとります。



パッチワーク

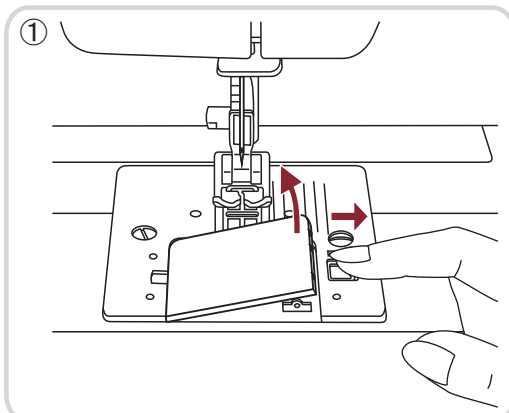


- ① 2枚の布の右はしを合わせ、地ぬいをします。
- ② 地ぬい部分を折り目にして、図のように2枚の布を広げます。
- ③ 布の表から、地ぬいの線を中心にしてぬいます。

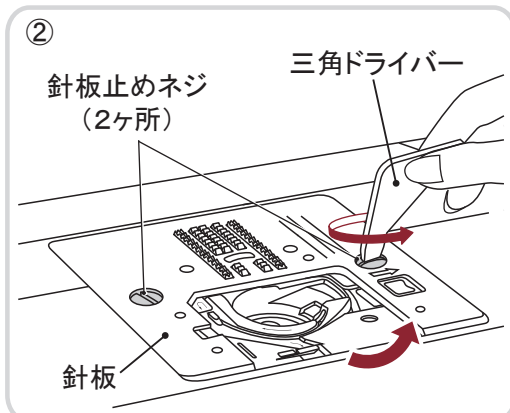


! 注意：ケガ防止のために
お手入れの際は必ず電源プラグを抜いてください。

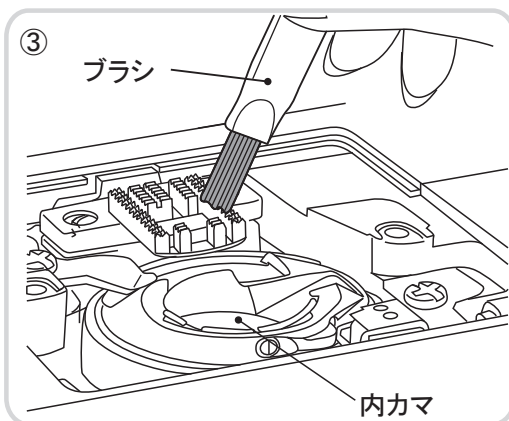
● 内カマと送り歯の掃除 定期的に針板を外して送り歯や内カマのお掃除をしてください。



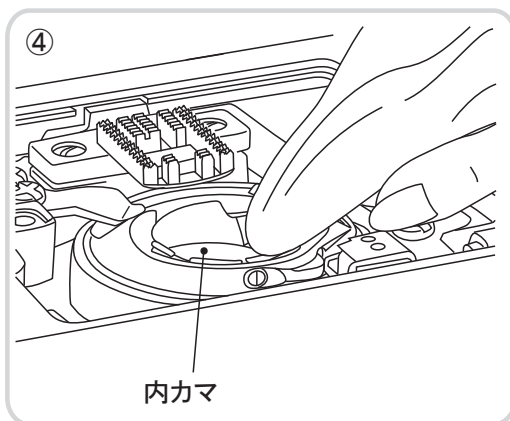
① カマカバーを取り外して、ボビンを取り出します。



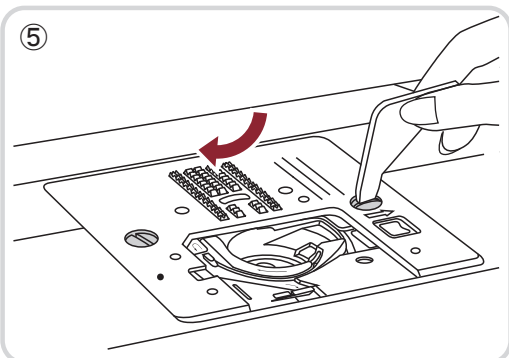
② 針止めネジ(2ヶ所)を、付属の三角ドライバーで左回りに回して外し、針板を取り外します。



③ ブラシで送り歯に付いた糸クズやほこりを掃除します。



④ 内カマをブラシで掃除し、かわいた布で軽くふきます。



⑤ 掃除が終わったら、針板を取り付け、針板止めネジ2ヶ所を三角ドライバーで右回りに回して取り付けます。

忘れずにカマカバーを取り付けてください。

困ったときには

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてください。

※糸調子が合わない原因は、糸かけやボビンのセットが誤っている事がほとんどです。

一旦、上下糸を取り外し、正しくセットし直して下さい。参照ページ P14-20

不調の状態	原因	処置	参照ページ
ミシンが動かない	○電源が入っていないとき。	電源を入れます。	12
	○スタート・ストップボタンを押していないとき。	スタート・ストップボタンを押します。	9
	○フットコントローラー(別売り)が取り付けられているとき。	コントローラーで操作するか、コントローラーを外します。	52
	○下糸巻き軸が右へ押されているとき。	左へもどします。	16
	○カマに糸やゴミがたまっているとき。	糸やゴミを取りのぞきます。	48
布地が縮む	○上下糸のかけ方が、違っていたり、余分な箇所につかかっているとき。	上下糸を正しくかけ直します。	14-20
	○上糸の調子が強すぎる時。	適正な強さに調整します。	28
	○布地に対してぬい目の長さが長すぎる時。	適正な長さに調整します。	29-47
ぬい目に輪ができる 針が折れる	○上下糸の糸調子が合っていないとき。	上下糸を正しくかけ直します。	14-20
	○細い針で厚地をぬったり、細い針に太い糸を使ったとき。	布地に合った針や糸を使います。	23
	○針の取り付け方が悪かったり、曲がった針を使用したとき。	正しく付け直します。	22
	○布地を無理にひっぱったとき。	手は布地にそえるだけにします。	30
	○針が正しく取り付けられていないとき。	針を正しく取り付けます。	22
	○模様に対して正しい押えが取り付けられていないとき。	模様に合った押えを取り付けます。	27
	○ぬい目の長さが布地にあっていない。	ぬい目の長さを調整します。	27
布地を送らない	○ぬい目の長さが布地にあっていない。	ぬい目の長さを調整します。	27

不調の状態	原因	処置	参照ページ
布地を送らない	○ 針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	新しい針に取り替えます。	22
	○ 針が糸の太さと合っていないとき。	布地に合った針や糸を使います。	23
	○ 上下糸のかけ方が違うとき。	上下糸を正しくかけ直します。	14-20
ぬい目が飛ぶ	○ 針が正しく取り付けられていないとき。	正しく付け直します。	22
	○ 針板の下に糸くずがからまっているとき。	掃除します。	48
	○ 布地に合った針や糸を使用していないとき。	布地に合った針や糸を使います。	23
上糸が切れる	○ 上下糸のかけ方が違うとき。	上下糸を正しくかけ直します。	14-20
	○ 針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	新しい針に取り替えます。	22
	○ 針が糸の太さと合っていないとき。	布地に合った針や糸を使います。	23
下糸が切れる	○ 上糸の調子が強すぎる時。	上下糸を正しくかけ直します。	14-20
	○ 針の取り付け方が違うとき。	正しく付け直します。	22
	○ 上下糸のかけ方が、違っていたり、余計な箇所糸をかけているとき。	上下糸を正しくかけ直します。	14-20
ボビンに糸が巻けない	○ ボビンのセット方法が間違っているとき。	正しくセットし直します。	17
	○ カマの中で下糸がからみあっているとき。	からんだ糸を取りのぞき内カマと送り歯の掃除をします。	48
	○ ボビンが下糸巻き軸に完全に差し込まれていないとき。	完全に差込みます。	15
布の裏で糸が絡まる	○ 糸案内台の皿の間に糸がきちんとしていないとき。	糸案内台の皿の奥までしっかり糸をいれます。	15
	○ 上下糸が正しくかかっていないとき。	上下糸を正しくかけ直します。	14-20

この項に記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店におたずねください。

修理サービス要領

● 修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

● 修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

● 無料修理保証期間後の修理サービス

1. 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保障期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。以下のような場合は保証期間内であっても修理サービスが有料になります。
 - イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 二. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ホ. 職業用として無理な使用により不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
 3. このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持込みくださるよう、お願いいたします。

LED ライトの交換

ミシンに装備されているLEDライトは非常に長持ちなので、通常は交換の必要はありません。もし万が一、交換の必要が生じた場合には、お買い上げのお店にご相談ください。

フットコントローラー(別売り)

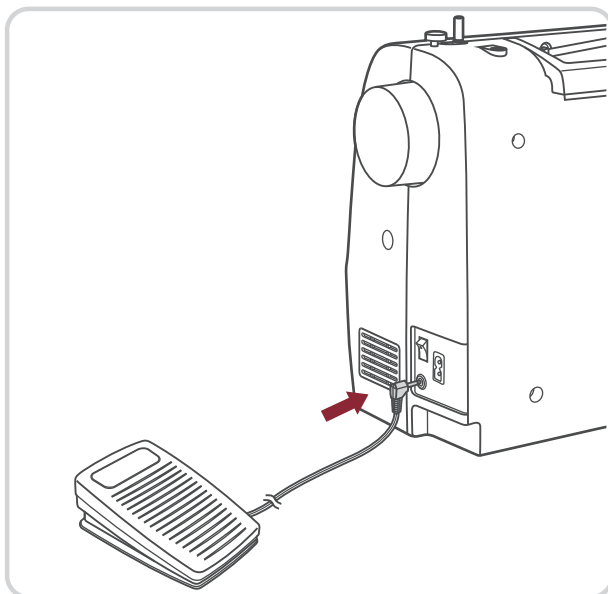
○ フットコントローラーを使うとミシンのスピードを足で調節することができます。

！ 警告： 感電、火災を防ぐために
コントローラーは落としたり、座布団の下において使用しないでください。

！ 注意： ケガ防止のために
コントローラーを接続するときは必ず電源スイッチを切ってください。

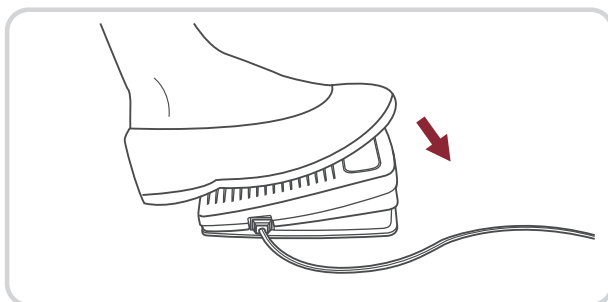
● 接続の仕方

フットコントローラーのプラグを
右図のように、コントローラーの
差込口に差し込んで接続します。

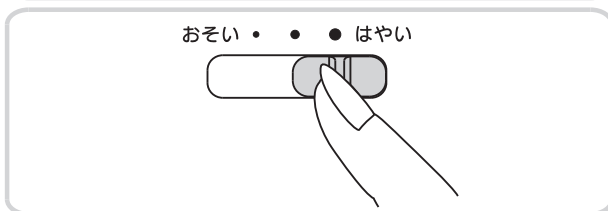


● コントローラーの使い方

ペダルを踏むとミシンがスタートし、
強く踏み込むほどぬうスピードが速く
なります。
軽く踏み込むと、ぬうスピードはゆっくり
です。
ペダルをはなすとストップします。



フットコントローラーを取り付けているとき
ミシン本体にあるスピード調節レバーは、
最高スピードを調整します。
速くしたいときは、右にしてください。

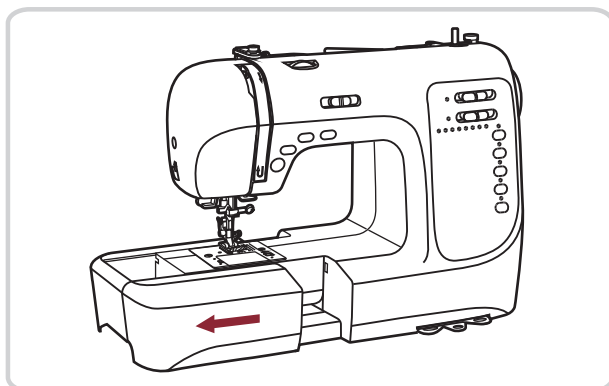


ワイドテーブル(別売り)

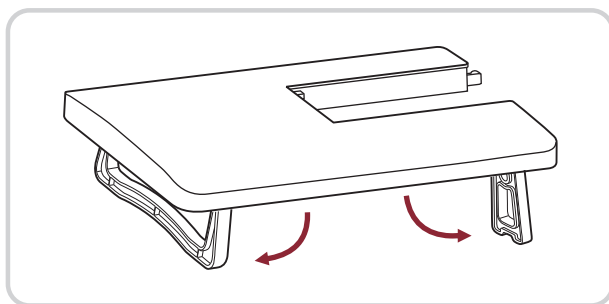
○ ワイドテーブルを装着すると、手元が広くなり、洋服などの大物がぬいやすくなります。

● 取り付け方

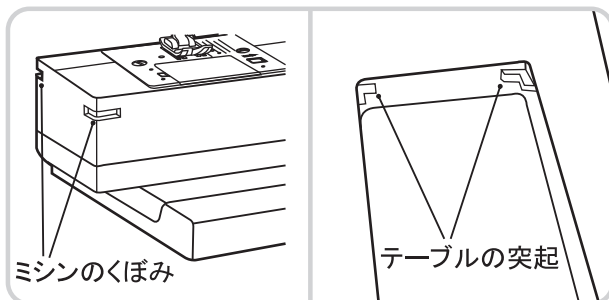
ミシンの補助テーブルを
左方向へ引いて取り外します。



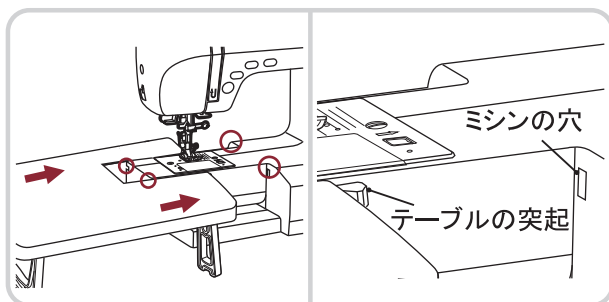
ワイドテーブルの脚を、左右とも
立てます。
※右の脚は、左よりも小さいものにな
ります。



ミシンのくぼみに、テーブルの
内側の突起を合わせます。



そのまま、左に水平に押し込み、
前後の穴に、テーブルの突起を
合わせて取り付けます。
※突起が穴に入りにくい時には、
ミシンを軽く持ち上げてください。



株式会社 ハッピージャパン

〒110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号

TEL.03-3837-1865

(本社) 〒990-2251 山形県山形市立谷川3丁目3515